





禄代之志故撰斯一集永欲傳百王被上古之了葉 集 依惟來自代引而践天子之位對於漢宮而追於陽之路 貴贱高下令嫉錦句玉章神明之詞佛院之作為朱 臣有家左近衛推步将縣原朝臣定家前上然介藤 新古今和我集店 秋~本沙之塵惟都我衛與為有截之時可顾治 部仁风化之樂百春之日野之草悉 飛月寒之舉本 羅聚作雜部之付並群品而雲布結緝之致盖去偷矣 與重無偏体獨學之羽毛教成而得二千首類聚而為 遺流尋浅香山之青獨或今或家校犀家之牙南 原朝臣家隆左近衛権文的蘇原朝臣雖無善杀禪 然仍部冬我在衛门督原朝臣通具大藏师藤原朝 之玉株之有餘部林之枝伐之些盡物既如此致亦可 聖代明時集而銀之各窮精沒何以漏稅然指臭傷 是涯世無民之緣故賞心祭事之熟鑑也者也是以 使和教者群德之祖百福之宗也玄衆太成五際六 之本主心和不賞我國之習俗方今荃寧合幹花惠 二十卷岩日割古今和教集美時今節物之篇属四序而星 呈進分至玄園花芳之朝環砌風凉之夕對雅敬沫之 布夷雜而同綠始於果肯追干當時版出物編各係 徳而致化或属超 辜而書懷或林影色而寄言我 原流宴繁長短维異或舒下情而達用或宣上 情之美未考素發持都三十一字之就南與公來 今上門下之嚴親少雖無限帝盾之語物日城朝廷

三月五余 咸有温故的新之心俗摇之歌不在弦平聖問己己王春 阎典何之即有朝風夷月之與亦欲至一皇家元久之空為天下之都人士如施奇斯道之遇達矣小獨記的 依無凡骨之絕妙思存露到之多如偏以此過之思小 老官他而一十萬寺 果城自维觀 聖造之書史寺 無遺属水而行善必幸但雜張纲於山野被倉自此 神武南帝功面八十二代當朝未聽數策之摆集美 都都長自後撰而初加其時之天章各考一部不滿十二篇 之獨當今只随接得到所勒然也称於在今者不敢當人 雖連签於 口湖小鮮偷漏被當视聽之不達空有篇章 野也先抽傷葉 集之中更松七代集之外深索而沒長 身之寂同然弱起喜天曆二朝之遗太定け而步屋五 先十載等 集錐出於 聖王數代文勒殊恨為撰者 撰集五人奉 言而成之為後有拾遺後拾遺全葉詞 問難被迎喜有古今集時人会給命而成之天居有後, 者盖是和於之原也紹次之起同准之做星序惟避煙 似多情之眼名飲取捨者本尚餘時運冲禁失数 而今听入之自都已餘三十首六義者拘為一去雖可足 雖之英豪都神仙之居展刊備之席而已斯集之為

交前上 一级介藤原朝を友隆九年十 藤原初 27 100 ्रम् जिल्ला 仍沒有家友的 いなどろいまとして 1 いるのきたちん をとうとうす 在街 いぬず ナカウ 福田班去 2300 してきれ 将藤原製

かいかっていくいとくろうとうしょう やもてあつかうかったるこという 万萬集一以持つ哥 出代上力を小的古念 前古今和歌集以名子 りなせるの小し しかりたへれいくろうはしいまとの 1221 少にいくかりがあって して代えくまっとうるうろうれとへん はからのきまれ いかろうろちちる そういけれるであると とくくてもそろうのあのかしてきい すているかにゆきっちかくいろろ 今のかりうかる とりのよ というむけらうとうろう かとき人都と るしいまりる つえーらのいろう いろいいろう ならいける ころしを成れこれっとい つねくゆうますくうろ らそうなるうそろいいり とするやつ いいあるれておけるう えりてから . 大学 はまとのだろう こけてくりをを いわろいる る就 さんというか うきはるか りたな

ちぐ ハスノ 在今年上考らて 1 内けられるあってるにはぬか 延我八包 もから るんとろいろ 物度 à, いか とううま 多 JAC S かられるとなる だらばみ人の (の)分 7) うなく 1 了最集八哥 100 とわれん 沙 かてき 3 上西 切かって かしりつ 火 1000

三十一 うち らとおう そくる けっぱかりも 一世次多株分 などろ かん いかとして十七元 えらろう



はいるいないかってもしてしているしてあるから いれておねりてきていまないさまれてき ならんというとことというか いるとそろしるられたい 新古今於於集然第二 るいあていろいまけずんはいか となってかれてき 平前哥子~ る 百看哥子子 ているといろ 水道前間白太政大臣在大臣とわりではである 一角を作っている春のらいいと 一あいまろう がきていまからいわ 人自君のよ 太上天里 しているこというとい 構政太政大臣 ありはぬ 皇太在文文後成 **武马用親王** いいいちのとゆう 一月五の哥 塘 ているでする

るらきしてくらったのうましろと逢城の をかから出るはいとっていくいとくるかいか るまいしれりんかっきゃかり上大のかるれるのいん 春日野へかくえりられているいというとのち でもつうかられているとうとしてからとう 百野の事なりあるりかはんくか いっての頃れりますがせるるおの はけんであるましていけんろのかの 是信院一百百五日人りりきる 和手のかと角路第とりまと 駒ろか 場門院市内百番方きていつろきろれるいの 石育等くてい 芝在都時の厚州 北黄之 天陆沙将属到三十七年息 けるけんとうあしまけれておなっ 多八少代~少多権中的言国信 日右れりかくしていいのけるるの手 いとのあとまけつの 还顺首看 一九的了一差京 太上天皇 山地去人 藤原家隆朝后 的泰斌教長 白玉太石宫本或後成 ではつりんかり

梅多小物 くてくれるいろうと けっとうないけんあろうのるけるうち 今更くるうかとしているうのとあるとない 核 のやえているからてきていることのというまである 一大大阪石高寺舎が裏ばらかと 看一年 かれたまとき 詩というとてうまわくせわりか御春は 和哥你中人看山月 八本と うるかおとれてい 思のなりういまておしるをつ はそうろうちゃう 源重之 あがは個 中的言家持 松小村原まち 藤原衣的 左衛门督通名 **太原件實朝臣** 越る ももまっているのかのは 化河内的恆 の子をとこ るかか 美人工

ますいとのれいかのくとはしているしときので 橋がなってくういろるのろはいかるとう 行らていかして くあっていってきつくろうかりしぬけられた いあいのないまできんうところいろのあかのって さいかといというとあるとうなりいまん いての後ろけり りゆのあいしというといろりくかしかろうとは 精政太政大臣家百百年食~春晴~公父 常徳院丁百看哥」そころうちでは 多らしいませ なのことうないとうてきょうくせらいかの 晩霞とスまとうるの 石筒弄くてい 石前野ち くそろそろう(のさる らんとう しまかず 後沙大寺方大臣 太上天皇 於原家珍朝色 いのととかきかりろうか ころのうけっちかか 上路赤 藤原は浦初を そておっとかってきばった 品大僧公墓回 心情的分子 惟州親司 をくるが、

松之 梅でありいまちく ねたかいずらいものである月のおも 春からうかい うやまのでとかっちょくむしかくろもびいき れたられていること 格のうかいうけとつくとうとくてもきのおり 百をあるてと 寺哉は親以家立十看哥 かかい 千八万香哥受 湖を食るというかと からるいろろりでとろうからからうきか とけるかろうとう さまちゃうろ できららある ないまれし いるととううりかいけろ ける 右衛门衛面具 原後賴朝後 安然石まな文は 感原家隆朝的 藤原宣家朝臣 放不動易朝 · 宁治前南白太政人 放原室家朝色 ときろうち そりのときって もろう のはとう じろうてんろう

うばらいれるう 二月君為奉 的角哥子 梅言りいれる 不熟陵春夜詩不明不情謝 欠にもろ そつかって いてりと梅まりとうできるか の大阪家る梅毛面社 らら梅れるうりろく 大切千里 八條院萬倉 膝原有家朝臣 康貨 太朝三位 でき 子多教 的言室顿 上女を 月~()()

るいいよないのほとうるといの内のはの大き あるといといろうないであるまちょう 男でぬからくはらかそろうろうちかける 應今へりいるのかりとれのなとから ていたいかりとわらいわずつけるのかかっき してたいくしてい 寛平市時去さけの家の歌の方 いきいる个ろうかの時はらるるのかっ 守受は親の子看教 帰應と いかというはくあいりうつとうかけるいか るのからろういっまいまではよりのあ 百首歌してすつりし 杨的太的太后家有看歌合人 刑部で動物語なしちきょうくはりろ 石首教女 時 かけてれてのはしせゆまり 一人人人 構政太政大臣 放不 皇前朝臣 つずろしているのものは 申太后文文後成 薩原者標朝后女 年蓮は師 源具親 なるとうなることのかり

白きりはていかのくま物のかけるまする 夏風のあってたく するせらいいけられるいかあれよりとあるいときか るかといくのりとうというなわとつおんかとき そのかからそうりとま物のとろからて冬たりろう 所はなのかりいいしろかりきくはしませてるな かんかくわやとうこ がふかるおかなのろり得しているうあっ いたかいけていりるかのかとうとうのかとか 千八百萬方命~春哥 學 处善力時以降例 化河内躬恒 百角教しいりを時春のってしる 建仁元年三月教令震事盛樹之事之 百局歌八年」 百局歌人 清神朝をかとしてる中尚你小まち からあるいなかけるないなるとろう - Fred うるるのかのかっとかくろ なっていいいくる称のか 柳仁親 故原雅經 太辜大前高盛 殿面门院大桶 格中领言公经 学院院門等 構政公政大長 勝命は师

楊れらいろとうというとのとろうをつから やっける一年かんかんろのかなくてきて あっと切ろしてのあれんのうろしりにかるでいるかり めいだてういるるであり ひらいおくるらって 了の意やみろ 構成太政大臣家奇合と野性ハラクと りるか 石首教艺 多り山てわくろうくつりくてりはないく りだこしといれるとれるると野るの言 ぞみ院子会教 (うりのはのまますれずてみるうちれ) 伯河院生 でといいい 駒不か くろうないとうないくしてるろうわ いいまれる いてりきかられ 式る内教 中的言家持 藤原隆時朝日 かんろしと 藤原家門相后 纪黄色 れどろういなれてあるうか るがはい 文以御 去世世恩 骨孙好忠 藤原有家羽長 ちうち時人之家待 していてき る行

るれるときろうとうしろ きのるくさくならい食りをりてれるかり 智のおあるころと 動るやしょうかん 学局哥八人 和哥的哥令 石局教育 和歌的少 れ八哥 九都をくいい らておくろと なるいまして てどのを多くないいのからてれ The second となめるられ 時 うとなれていてい しいろう のはいっていまれい こうゆつう 藤原之家羽花 あろうてけるといまれりま ありは神 藤承惟經 灰色家衛列尼 でで次 らき回うだとろんらを 源公忠初后 年道は師 之後い若ろ てきるなななの くなの 1 を入う

るが野の様う りのは之る 在學 縣原有家朝色 ごに住ま的 古かの文のを引 心慈问 精通具 下,老人 ろるか

有看哥 坊る内部了家里 内太多上的 千五百 香歌 をのるり 看汗 おいるからけらるうろ 何時 山出去 なでしてからり 里太石灵文像 スス内製す 在原業 传艺 いる時で

そのいているりで格をくとかいよち 我をしたかり えるいるいるとあれること 山になりこうないまいいいいつきったときからから のるとるいうではいり かとうしるとしまれた さずいるいるあたらくつからかり 情政太政大臣家八十局歌しとちろし のる。グララインなべろわ うらいでけっしてりたのちられるのもの 上いているとした時久 そのずしてまた」 、事竟は報ぐみ十高教の ふえの神のたのかりれのものちな ナスの香からる 物色了 見手は時去さの文の哥合のうる りかり機だちのかえるというりつ \* いっくう 皇太后夏大史後成 **发原家陰網長** 中太后まな人後次人 さり、神べれのうならら 代替ろ

ありるのうないうりょう 多るいそからでかくきからのうか おの人はいれてら めつきのへいとえるかくさらうるまいろう をのろうち 花品各稀と八事と 好可院神時面面教をより きないろろの野で 百筒弄水 花及将宝人 我十九百子! 見山をいる るりかしき えかてをいのけるは らいないとうとうても 公子等 へからかける る 4 源具親 大京不支獨輔 太地言师賴 源重之 惠一爱话师 しているのる くれてうる 展修了母 てつるいいい うべんちゅう

かんいののはか 心をのる何れいる いつろなりろう 千只百萬方合了騰原定於初色 取勝四天院時ます 木を見のれ 千首教とてる 春日坊奇令 石石教之 用路卷 一般との よろうわ むいわ 隆院被 りときろうる 野山るろうの からいくなのと

りってきれとすっていれるようとういのこせるのでも りはそうきせとえつ てきりかれれる でえてきれんるいないかっていちろうへのつけくいと できないから いからうけんできる人なんだけれからまれると かまとうというり あろうけきはるまとからうならあか 千天百多方食了,方边中将百年 すべ をきしていろ 赤ろられ 人通前等白太政大臣都面看教上要给 立十青哥 ž 家のやなろとかせく佐川親れとして かのうようつからとわらりういかかりを きろ 杨敬的 かっているありくしてもとううろう 移えないちられては いくつうちょばかくいころと 公のからまるであ 殿面门院大輔 後恵は師! 宇太を言文文後成女 太子内教し うだけるかかり 侵德太守左大臣 おぬなみなた 惟川彩 縣原家門初臣 太上天皇 峥 意

305 るっまろうないりういっちょうかりをちらるのうか いちりそのなしあくない きまりわればのむかいためれ いみとううつくわらいてぬかって教をこれろです いきなうるまろうりのとれるうろうとう ずがくろうでいる 千八百名哥合文家道は死 をなぼろらってはらまうことちで つきまするけ 曲が塞とらん いありゆうまれっているがちを見め けったいなりとかろうではのまとえない 代費之此小宴一份多时月入於難情 小野文へなはほりうりるけ そろにしんべ 百角教の中 ちってかき、格美今なしたといろ 駒ろか 小名後ときるからしる ~すつかりるてのう ゆきし すとしてらる 板上見別 ていまちるものれ人な意 すきいる できていきるかくかっ 中的公家特 藤原惟經 構政大政大臣 おる内教し 大狗言經信 後回 ーいからまめいき いるとうせ 門部哥 杨奇之是传

えるとうてはいってきるはあるのうはい るいいいのうですいろう いきいろろう めるいべつたちょう 好了礼物時百角弄多でかりるう は梅公のかない 男うと 天暦中二月十月藤夢りつでろくれた 必我十三年等る院子學有 死る会せて藤花蜜やろみ からいまって今 方はいっているのるのあるくかてのかい 石前教子です くろなべいのかっと も也は たしからずれ 一村子 せてでくいかと かていくわっていますかか いかのへ きろくろ からそうかんのまちまで 在中級害国信以 必在沙哥 うらくなんいるころれ それのよういちかそのう 權中微言公鐘 藤原與風 の大石文文佐城 膝原家邊組瓦 杨的太好大人 ゆかせていかのかっ

差しいちゃ TET, かのじろうと今いわりとうる あから とうれる 古るうととてす 完平河は赤されるの哥合教 山家を着ないへんらう らあ三月書と ういらいわとうろうそけてでかってきのかち 五千角哥八子 春八色でであるが見のこ しゃつはあかからりくるとれておいのまれる こことうりゆう るをなっているからう かなのれてい けっきできちできやりのり わ春のと 博 りてきる 支内鄉 なるろろのろうか 里太征文大支後成女 藤原 仔總 藤原通信朝臣 運は阿 くないが かっきんの してんだいにき 七五 S. C.



刑方令和歌兵老弟三 及弄 3 東院しは言う内水 稠 うといるはは てある かんかりとこんのつく 駒るか 更衣上見信言人 そんかまかさます いろうしくらかっ らるいあっ物とはくなきてらるるうか いっき私文を山内の新 りてきと 中子子学之子に多るい らいのるかとくしわれるい 小传送 ころうれの お子内教 太宝 京 魚門院門哥 ののかんとくちいちい 然大僧山意回 素性活体 **柯统天皇鄉** 弄 源通海 るとうらいまる 不敢重家 うなな ろんれ する

及るいろうとうれとあるかく我のでもいるとあ けかとうのからのす りとくは人のえかとるるというできてるころか 野場ってもかられいといるのかっちにきいけるか なるとういまりいるのうかかいいくつ ちょうやいめのといけられりのれのりまとうとう さいこからかなくほうとろまからいきい わらいりけるるなくてわてりれるなる とういかいといるのうならいらかき ひとしまうあをいのこれろうれるとろう 質ないゆうてくけずとくのか かいからまちろっているへかさられて くべんとうなと 光徳氏してる教とくすけり 友情できる後のですこれとうかりょうろあ -でかあのまてあっちかくわってうけいができる きた 老女孙 棉车人度 藤原元真 待獨门院本藝 麻原雅经 湯ななな しいなりと A STATE OF THE PERSON OF THE P 一きのから 山夏哥 ところうろうん

かくからつらのはるころいととていいけんと は見いくというちはくうのいはると すってうねから物とゆるう とうなるけらっていているいのかっとう らいまろろろ えのころかりれてある月のうかまから さいんとう せんきかあるのう 入通公局白衣大戶份拿了对百首教人的 親不知 待春のかところうろ とからときいいるるろう 村にいきてかり A STATE OF THE STA らしきならいいっというない ハヤー・そのさいしおうべいです からつきぬるそろらか 出水弘 机模 宮太石文大支後成 白門院河教 大約言經信 中价言易持 存在能宣朝后 くまはきるいろう しかきるやかいか 領方立房 ととこ J. J.

からかっていいののはいけいてからうと るるとろいろ 到 かくするけい出 こうといういかくえるのれかれて あるりるずる子 はきかちょうりちのまるゆをかうか れ何からといめいしん 13 後德太寺在大臣家一十首歌了好多 見此年的太政臣高陽院哥合堂 かられいのうろとしんなきろ 石首教之 海遇和多人 ~そけらりまる男人的名かま りょうかへか すってかし、大を変わりのか てやなとれいるまれてきぬ 一切あいろのろう あろけくやあ り内及哥中 楼中 とうごをみのをかとまるさ 孫原保玄列石 楼餐使公通 はしいちゃう 周防内侍 そんれるするが 八座歌高倉 氏部心範え 府太政大臣 納言親京 文结成

べいなわかのからいまるで教ですらくねつりか 時馬ありきこれがあるちとできるといる人からろ するいしきとせるとあるであり をとくをはしとぬからぬやる~く~ あり見ばれてかられるいくでしりのるのなろれ るとのなったのとははないるかる きのかはしくというからって置かたのなる 一島を院からていけずら べるかくいるしぬきちゅうしるあっているろう てもりりしれの名くいのもりかりるまたと これをわるけれる自己とちもしてある けかがうこともんちをうろろりから 人りなくていなけらしてはまう 述像となく回看哥上九份了内 石首教をて上行了 千人面易弄多~ 楼中的专公徑 これないれるうとなけてと神かって · 放原家院朝臣 構政太政大臣 るがは神 大物言經信 皇太后文文後成 **なる内裂し** してきないいろう A STATE OF THE PARTY OF THE PAR

るりるいが、ろうけきらいまるころはりまくらか 人事につくてのまるあゆきへんとうだていくで 早面とはいめのそいようらいくそろんななという まいかっとははれるととなることではのまかり るそれりからいるときといれるち 中のうかいかくとするなくてくいねらうつ からとうとれていてんとうころからから 石首教していちゃうり そめやらしてんなっている 雨中本盤とけてらったと 祥門九十後後了七份一时降倒立月雨 いっていきあいいっ 世中あといびうろと うちかかれてあてるう 5 5 5 x x 入通前角白太政大臣 位男大輔 滕原基後 前中的云边房 大納高經信 構成然以太色 きな熟 大物言 徑信 上東门院公将

るりののけてつというころいろことのからい 大月るかというとうちいったりかいいりともろうか ろうらしてとかくないなるろれります かからううくのまれてかってかしあろうなること ときえたたるのと我してろくとう Learning Of View となどれるけてくんれらうととなかられ きれいるできんないのはからのみずあのろ らくかあのちとあるくるりありては 太神天 百角哥な一内 方大的言志良 石商教とてゆけるう 月の時か けっまいしょっちくなめんかかり 三月一多多面後 · 前大的言是食 そうからろれ 蘇原之分朝后 去るり教了 恵不田氏良 中太后多大支後次 太上英里 樣原定家朝日 石谷八卷通具 三座院横沿 明不為哥 多一两の中山 うがん 1000 × 355

時馬ろいろそのなとそぞむしの人であ ある月れりとうわしてくかできますいる かりそのうとからからはくるころのそのまから たのあいりりなくぬりり からかきゃからかんちいかられ りいることでわってあるとこと様とどかったのうか いふわくいっとろうけっちのつきられたるはっ けつとのをいくなくとなりるようせのると りそのとうなったいていてのちます のそしりいくてうかは変のともっとしているるかり お政太政大臣家百百哥拿題河としなる ゆけ院中はさきの言を向月をきる 守者は親心の十角秋下のを信うは 題るか 子看教之 かめてしているりはけるかかい 藤老之家朝九 前史備公慈回 るとろしてるのきりり 豫人 恵慶は师 榜中的言風信 守太后文文後成人 方大備立意丘 白河院市哥 **黄原家隆初后** いかわ

はとうハから つけからけいろいれば 选自秋河~ 行政太政文化 夏百首秋令? え場で天院の降まりまているがある 出於 みてるず すていける こうかきて 百角教子不好的时情故太的大人 -1 Jenny Car り未出るまれが のえかってわ く竹風をほとるかまく ととろう いくかのかっていれている かっかとくしとかきむるか る家朝区 左衛门管通充 前大僧山慈回 膝原定家初后 自太在文本史後成 一個とういろう しまてつくい とうい 校文公建 くるのとなる とうといめる

秋ちっとも一方のおといけのかのあっち 好いかというこうらんくきへそうちりきりとうはか いく時のとて海のるでれるそうと あとがあろむけれるいろうるかいからのぞ からうないまってるないいまれるのか あけてるかかうかとこれてとうちゅうと りつうでかられているのかれているころれい お徳院」百角号とてよりそう時けられてもの単れるころでは、くろうちで いいっとくいかのまなんろいてまるいのか のきしとゆうなのかろうもとう 言のといりよところりる らいれていてくてくまらはっこけのれのと 石首教とてり 千八百番哥今~ 百角哥十二 及りとしちつ 書店をらしいのいりたりき 十六百多奇多 特中领家公理 而大的言思良 後三位轉改 構成太政大臣 なる内段了 面的は師 二峰院横沿 原佐賴朝臣 为五汽浦胡卜

えおいむくろれとけとうそろくしてあまかいる るうろのもていいけてのとりえたらっているのれ 雅かっているとはいている物とわられたとせ 山重かられのわりましてとてくくしまりめた弱 そんしいろれてらいけいかかでのうきい りいのかくりどませてというかりていっているい 行いらとうろいろのとりとうちゃんれて ・メイトとろめ 一般はことうころいれのこれからかろうとは 十八百多百合 表内口 竹れてはまってもかっていれてるとす 文的二年大海入内屏風 大神ましてもつうしまからけず 夏哥としろろう 百看方といろちのまれる内親と 刑部心賴情等令一位多了的流之了的 八十旬方ちの 前太政大区 入通前国的大政大阪 お大僧心慈山 杨成大成大匠 太上天皇 馬倉院河哥 後点は師 立け忠見 石首方表

ははのきそうなるとはきとうなけるころ わるろうなりましていてうれまのわ かなったのと これのときもといせいのの回かりなはか 古今和歌集老事四 かし我のましたころとうとなる状を代きるいる 秧哥 ころしており 守力は親くみず有奇りぬを待ろめ ( ) [ ] 石首教とていい あるとないではいまりとうころの 百色 百百科了 駒不知 文海本者所有屏仍 ないまとなってきけつかくいろうけって ろのあるちち れる いれらのらうろと はの何つくいのななますろ そうからのはあるまち 家門初戶 灰原病能 藤原家隆胡臣 後速等交后 宗德院市三 自大派多文多成 孫原玄通朝を 中物言家持 必然とれる

父養いおといいのかというとうとうとうなるとう あっきはいるよのなのかっとなれているはないな うこめのれのうでとなかりるるとうかろあるれる ぬり華り話のとはとううとうとうなどはある 小童ろとかのまてくせくかり もつとうなているいとうくろうともきまち いるからののとのまれて かで物とかとらならううといろれの初り でみてあるとてろうしのかる していることであるときるのないないとう 中的さずりいちろのましるあるなしつること 京徳院一百角哥とてりつかり時 しんとけるう いっちゃくなるというで 十八万中の子 7 - Starting よど被称なてろれないよう かきてきりとういろゆ 中将心具手取了 源具親 法性寺入随於家食祭 似的 自太在至大人後成 るがは消 藤原雅鉅 構改太政大臣 方部门各通具 例がは

やれていれいしのないろうであるとうあっか 期かとからいまのあるなってくらしゃくので わかればひとくして」るのとれているかまかまとから りはちつとしてもものとうかったけれられていれる れきろとなっているとうかいまのとかれて ないましちょうかってやなれのではさるうけると マルースがの多しとのいるしていといんがあり うきにいくかどれつこのといかできろうちはけんちく やおかられかいのうかのかったまとうと 「有角哥」 と我からていかけまりからむらかるん 粉かか 至喜清的月次 屏風 おとらくてられんちしからいるけられなりれ り一日と ま徳院して有歌るとううすろは いとしてい 大戴三位 小野小町 書私好点 放原經衛 なる内部と 七座院授奏 後德太守左大后 相模 自太治多大文後成

了いしはうまからできてれなるであのうない すかでのなりつととろせとかるできな人を成れているのなりではのともいかります。 えかりにならていかったとうしたがかけると けっちがかられるはのましているかりの かけるうろうのののからろれのういける きりもいめいかとうとうろうわらいは 神のらて我やしておののまますかのあきるか とうとうるれなればからおいのきがからま それなららしく方のあるかられれのタくれ でもなろうなってした情ら アダとうしきているからのけどうちれせ 家一百看哥~你方人 有看哥一件工 イメイツバ The second secon きつり うるが倒白太政大を家上七久のうち てりてんてみぬけりとうちとでしたまう そられいはとうつうしょうちょう 校中的言公經 なる内部で 松大物艺长家 入通子原明白太政大臣 太平大到路堡 祭了柳親 灰石长納

るがなるれている はないかからからのないといっかとれば はおと思のとうとうもでいりまきてかられなれる るれて今かりる天八ろろうらてなりからから らは一八利人とかのはないとうというよう わくれとかてきてりるれたとからろとろうと はしてるないまろうといろの別へやしている品 せくていてないはいのかものとかるといい おうたりゆしまてかられているとのまるが からいはとるとてもあるのではかっなりとろうと くるいるいかいわけるところれてちそろれは 好行院中的百看教の中一孩子之待ろ 中的言意相家居風者 教一行と 守有は親するするるりのといろうし あったいまったまった 後三位柳及 中的言家持 於中的言之房 人産 **村信以永福** 待員八院好河 本中区脏宣羽区 抗子門親又爱化体 夠的法的 女が徹るなる

上はのだからうちとはそのちかてはりの なってといういっていまするとけからわられ ないとりそいろううられるのくいろう たから人からいれからきそうろかきろいろいか てるや沙思かり野でゆく首とかられたか うの務のれていてころうれがくこれへのと ないりというりかくのもゆうでというとないなが をあれずつかまないかっかりからき かなうといいちのいのごめて くねらしいかいるとありてくるでのなせ 京徳院し百看子としつりきる時 南とこの 千八百萬多合《 左近中将京年 ゆき付きろう 入道之的牙白太政大臣右大臣上行了了时首看教了 いていけるがれたなでたべしからする 一多次 饭上是好 大的言行信 皇太师文大人俊成 清補初版 乙歌は師 角ろう 曽谷ぬ心 藤原え真 小野小町 几河内的垣 れていくりんかってもし

かろすけるるをとうしくかれける 小倉山でくのだのできっまかのふろいろり される大野のとうき物を表いていたったくったと りのかともいいろうな言の状ろういまではろうか ずっとうかかっていてもなれていっちい 下に多つきりかけれいよりてするのうれというか 構成太政大臣百首哥」のであるす ゆうらいとないいまといからてお言のす 物ととがを弱くのからういり 好可以一百百号をすりりき時 おからうかとれています。 家徳院市内有看一方子教士 行うしんりる 源重し女 百角哥 おる内親と 藤原基後 友衛八橋面光 大龍鄉的京 八陰院六條 今市級る女王 るか

あい、日本からいというりゅうばれれのうち いいきそのますいわらろうですいるなかべる おかまりてきれいるな物とからないとうろせてい たりもっそうとううですのとなるかのかの人 かくでもありしてと体のなりないるれ なりかてういまのしていかはあられまろうる れんりついくしくかとおのうとのるとうかった 秋の至るまち とういいかんないとうしょけらり 門ら次 おしかしきをいればそれらもからかのある そりおろうかとうちそろうかなのはる 西りはゆいいけてるる教しぬとゆうこ 秋子とてことのきえの神 五十看教育内 うのことはないとうてでしかくせら 夏~百首一条一情方了 石前子とてい 山路城的一次一人的 一起大傷心慈日 3/15/ ろけるとしらろれの相様の 放原推經 藤原定家朝后 鸭长小 播政大政大区 もいくろいろう

をおりかりをいれるでくうけんりっしいから かいけってがい あろいのわきとう れんのとうとうなから のありけいれらんできるってきけるからいろ さの春かれずんなりなくくけるなの代月 みてるるとてという ハマグくからかりにおうというとならいます 守着は親子有教」はを得ぞう ははする通前角白太政人を家哥食的 いいないつのわせてうけつうかまりときろ 十五百多品品 していわられせてはいるうないの がくるといかりのるるかけ けれていとうりゆうなのはれ かん 多しゅうこう 桐族 でしての意のべん 右衙門精通具 和東京部 藤原麦隆朝后 **发原基後** 藤原長能 なる内親で 皇太后文文後成分 曽がなと 内村同月と小事と 1855 いからいきつ

おいてい というのかかいことという いかきまったのであると いくしてい はずっとなのか了ふでらして 村以外以大臣家の石首子会 んいからりるとがろけ いれないるるるあれいりりでい 書面微月と何や 石前ランケー 小をあずく十九子とてす うらいかちとももりゃ るとうきいいといかと るからいろうの日のととしる れるそうとそろ 一四月不 藤原を家朝を るとけべつまのなかれの月 なるの数 前人獨立為日 如門院河奇 三條院清釈 好的方大臣 れるかの野の月か けばする過かる食養 楊为仲朝反 いろいくけ いて本材のほとう 万萬八樓面光 そろいのジャ

るてたれる人があるとうなるの月から はついかというらんごとしてとうりとれらせるや ならい、おっとういくる人人の多い明さまる 月でろうないてあるかいろとろとのこれをころっ あろりのかわくなれるいとしてるのかろうへ かの海や月のえの立じるをかられてしあらるが れたわらない月のうでとろう がしてくいとかった 建仁之年三月子茶し家秋月とりまし 百百年本(き)秋のかの中 和年五多を初進月いるまと 五十角子とううい時月前まれ 法世寺入通前的太政大臣交口月子わら 行うしま 人といきる りてきれたちむうないはいりとうく 1 Proce ~~からうしからえない 要をなる大変は成本 太軍太原重家 來連法师 杨政太政大臣 经三位赖政 家院初臣 藤原家陰初后 しているのとなりとう

れつれの月でしぬのかとないろうさななられ りからく とろうれらのれかれかるとはしくしりかかと きりいろういうからとうとうちかあり 大のころの古のなのうをおる いっというけのるいることがなるとかか とっていわれている我からのるなれる 之野路与子松子子衣は上門一個一大的 \* 山りといまとうえんでする 八月十五年和奇万哥令海遍秋月こぬ 和奇的教育山邊月と われのしとかり 像分 5 Salary of the second 海のなり他門物がよう 大方 れなかろうろうかいろう か月や人 鸭长明 のなとれろ 鸭長川 叉内鄉 源通沙 又的大僧心慈回 国秋心院开發 藤原或站 藤原家院羽后 七條院大鍋言 大心十里 小人人人 からきなるの せかさんろう 村山南

月しろいれとうそくとはの月からつとからかとれ りおっていくろわけるをかくしたのか ろうのかはてかないとりとうかろいる 山の書きとうころういいいちょりろかばるいきる なってないくままですりとれいのりのとうとき か田山やていわしれてきくまなりとはからり こけからくていを持いれるおりといかとうらとう るろうたくかしまいたのまれないいだけのは むるいなってわらくるっていていたいともことか いつゆことしばつ(まなから)の重ちと物かっ A STATE OF THE PARTY OF THE PAR いろうといとはのとけられているいろん 我一ら次 京徳院」百首秋くではりろい 永着三年也最两合人 ハンマーさい 立る内親と 机模 藤原範承初后 和泉玄勒 左衛门竹山光 殷面门院大麻 通過法師 方京大文频旗 大門言題信 上東门院小好将

れの月とけるうかといくとけっきょうないまくり さべれないないなるう かんかっ れのわるれる 路谷をかけ いるのととうは人でからしているか 公といとあり りていりうちゃくなりものをうしてい えんえ年八月十五大和子丁七日家見 するというすけのをかてるのなるとい 也一听不今里多月といまと 八百年として 五十首歌~ 家二月五十首秋~的生持了了了 てなる城門 らば 「内ゆきりというくさ うというないろうろいろり あかが **応大僧ご養日** 在第二 と行うてける 南太政大臣 灵内忽 源家长 横段大政大臣 在大将总经 这家初后 野を乗りるち 好政太政大臣 新短月

はののうなったいいしろりていてるするの かのるたけるいのとめとうとりいというとうなって かられてうとかっていたがったのか いいちくれいなのときとうようなのかとうか の外の私文の話を、文をとかとるのの月 金がなってわるしいり月からないないと くれんをいりのけったりますらばある てはんさく 京徳院市時有有奇分 經房で家年今時月の入び 秋帝の中し 石南子とてり 立十首哥から 五五百萬哥今 た衛心格通光 がおくはくひとうとからまわいかろうな らか とと多りかゆくころりま **耷区定雅** 二峰院横设 左京交頭輔 皇太后天全後成少 藤原雅徑 五部初親る なのうろ

おうとあいなうときころうたとろりときたちある かんといれのまかれとそことあればたのと 新古今和歌集卷第五 妻子は鹿のらんなうかきだとうとうかんでき かくまのとうろいってきられているべれのちらん 我かられてきらっと原からない たいたへれのあるとというかりもしていくはったと 秋弄小 もつないとしているとれのなりにはのと はってるるるのない らいられるというとうでいうあるが 和寺町かてなめこうるりを持しれた 百百哥子 晚的康七年十五人人 十五百岁多多 石南哥儿传 かしば 而中華言之方 **が大僧い**庭日 来運法师 藤原家院朝后 入通方大臣 杨政太政大臣 李門门以大人 作明観し とあるなどうん

社有っていいくないなのれていつりとそれが 上回ろうからくれて属のやかろうこれではいいい れのうれいかいろれることうとうあるといろ やしは了まとぬ唐のかかいこれっての話でいる りをはけるらい のいいまろれいれてうなおいくまんまとうてる 山木られていてかっちゃくて味のをうらいい うたろう 構政太政大臣家の百高哥合 いっちころうろうないのかれるくからん そ 被よ肉熟了多年一会のとう原の云としいると かるころのおおしてきてんちょう 白門院馬朋一切一白了一田家秋照公行 多一奇多一情でかっまとしゃの をいていく~~~ かと 16% かっんかな からみのほうそ 大きのからとおとらうも ・情人ろり 行け幼女後志 権大约言長家 **茄大僧ごき日** 後春は師 中汉志文所名 面行法师 源透渐 麻原類總朝臣 1

後冷東院のかころましてろうる野かんといろいろ れていてりょうとまてつしょう 我なくろんだっとうともあろうにかりたなるこう 中華にするけばのの彼のとこれの意大 場をむ こと原のまといっていていっているころ れらいいないませてしましいくいちつかっ 今らとはほうてからろうくろいろいるとう のまるだらかっけのはてはこいちのいうなってなっ せきなくとうとうとなかまそろうろうないいい かとこめいない神のだろうであるときない いてる話し我なのはうううくとはなり していいいいい 人のの人 してうろれのひとれるかろ 中的言家椅 人磨 好河方大阪 天港門奉 人後多了な初のを記 恵廣は師 大大 人産 中倾言哀榜 養滋為改納后 前中的言語寫 定關太政人 んと

はのいかできるからへやうんならる 野るかありませくろのではるないなってい かいてきれるのかくらしてかきるからいせのと なのかりときなってあれてしてやろのこというなる ての行うままれるとあることなるのでなるで いかりまれいいとおりぬきいってからの のるまでいるくあらくてくのろれで 闭起弱属 任事之 石前哥のすり ととうしなのあるといしろうなりのもはいい 石前手をきたり 白河院やくかるおもととろのとれのころ 十九百岁五千分了秋奇 そというとうけんいわらってきなくとの日日 寺覚は親はみて有るころける れかうろかり ナイラックラ 基後 太上天皇 赐左大臣長寶 立る内親る 家門初石 **荒大僧ぶ慈日** 年通は師

まわせて月われてきない状はあせるなん ゆうりておういろくなっているものをはらり ろうでははしているありっていたのまでいます めろとうけるはろうのとうとうりあるりとなる はしてまてかっててのとういるかられるというと つきれるきていれるだけのうはあんなろ いいはれてのとうときとうてあまり、神の方がくころ いりいのていく月かてをはらのまるあろいな かいかれてきるとゆっていくあういか るりとろんと思いりかきちょうであくまかいなりな 中的言意順家属門衙 石前子とていっとう 榜夜~~~仍分 大狗管徑信 の月十三大月くいいくらそうどかろう 石前子とているしま おうのう合りりからいるはないいまと とっきん 持衣のマス 千万百萬千冬 定家初日 \$ 20 mg 式る内教し 藤原雅短 通信初戶 文内網 杨政太政义后 核中独言公徑

かくるうなどのことうているからうちょうけいまた 様とういのいろうらっこってきれてみいろりと見られ りのあとうとかませきましているから のされたいるとなりないとうかってはるをか 秋のれならいろいろいろりのえてくとけるま るといれのかりきらいとるるかとうかられる くちいいかとというこくのかと さいられてれてくてりまったいろうまれるいる めては大阪のうちょくしょくのねめわき からつかろうるころとれはうとうなる 以青く 利うなし 好門院門内有着子ところろろか多下方 構成太政人民大将是自己的月子五十五十五 門務ととする 子首教とていろう 九月にころろる、その院川等 八哥上了一名多大的言程信 ナせんろう 大上人 富林的点 九後八卷通え 清原深養文 年 連 法師 藤原这家朝臣 二 行大的言公實 席連は頃 度 蒙

おいっていろうれるそれとのおきからうる 大からかがりをことうといいからうめてるうている あとよいれかものというななりなるのある ひまそうのてはいとかとなることといる方がれ 白きといてけるとそろうの门田へどのありしかっ 秋せつかいまくとねのをとつしらりまそうというり 馬ういいきるいてきくれておくのでいてい 初るつかせはくからむていなおからろうるら 火はかきれなりらろ西つけらいけんとのなど ときなけられるのからいいかろけん れるくつしていこうろうをほうないとうまという はいあさしるのける路林りとつはまと 子有教とていろうはあれてとなる 子首歌としろり一四月前町馬となる ひろこつもめる 花園力大臣家 馬利院が内でありてもとういろうちょうと S. 朝惠房师 身太后文大天後成女 文内衙 面行法師 家門相后 お大僧の意見 演く不知 化河内躬垣

かららかりとうとうしられているとと 秋かとかいるおおのまかとやっとうしいは なけるるとかとなっていっているかのなか おいてあったるとういろうとうなる がいってるからてしてなるのれていっちのる というななのもなりかいまするれるよういんで わられるいとかりたちとあれるとれる 今りまえり とかくや和名のう 的的事一个 春文村交公徒 石るみとくろう 枕子して 千八万里数平分子 千五百萬哥合 南大僧山慈国 ろきいのかのかかくらと あているのとはまのけていちょうりかきる 一次を上ればてるのきでうないなくなど しいるこというないとかというい To the ار ا おくかなめとくくいないできるない 自大店また冬後成人 権中的言定赖 ろうなくうかいかん 太上天智 た神一者通え 構放太政大戶 大いあ言 中務鄉與平朝

で春のちょうからまれるがなるという いけはくれるのまくりとうののまの切りた 気わ やいまっとう なかとおけるとてしなくおもらけない かっきりきり からしろの木とろうかいかくるでするとろ 完勝四天王院の降ようとといううちち 秋の奇とう 構め太以太后大将とらずつのあるこのといき 人通前用的太政大臣家一百看奇~~约了 如東多務~作人事 てるので成りと後年ま月のこ 着なのかな 和哥所行人首哥的 了的人多明了 いろいれり いからとう と移きけったのちと 皇太后是太是後成 太上天皇 八座院高会 中務鄉具平 庫 連活師 **前大僧ぶ庭回** くならといわろ 月とくなるい

あるくがんいとうしいまりてくないものでき 今次は水東いち 何のましゆしりをしてあらりからいない なしていたのの かっまいくらんかう そろしいとろうう りまつろうゆるてといれているろうないという 1日の多日は日本 ちょうち 十五百五千今 家隆柳區 守党的親立中看手としている あるみとてい 石角子とてたける ほるの後されきてもつきからはでくってと 九大将上侍了了四家一百角哥一会 や事かりろんけてらめとかきろう 150 といろから あるとなったかってない しせるくりかるとれのまけらい 少まなわしいのゆといけん · 寓孙的忠 まれのかるわらってい 楊政太政大臣 なる内裂し かり 一点の 省科松品 後類初后 てろいれるう 定衣朝后 多的 100場号

りれのうしかってからまてわらいかものもん そにならのころのなりまくれらるくのない れとちらるわ きてりまするとうあいきいちりもこれないと いていいろうとうい いかかまの多いゆう はのちいらきらい過あっとといいう る方面の事 易了石首教令 行まるゆうて おふきのと言 石首教を 法以手入通前的人人政大的教育会 ついけいとれてくりはなるまち としまらつちっちりとすのおかしまん からまけっかつまのようなにぬきるとり 一ら次 でしゃいくしていますののまか 好榜件被言公便 三峰院横崎 いちゃくているとあるから 分きろす 而大的言么任 杨中彻言多不 構成太成大区 られるうちの いないのよう 權中的言長 杨本人唐 於恭強親除 さいた

同な月書のら 子看哥一人民と **加太政大区** 

れるいないないのちゅうそこしいりくわそうち 新古今和秋集巻第六 まわっけれつめの他のおうとしとそうとん みるつくりかとれいかいてくらったけらる いとまかいい大井川ろまるというで いかでのようさはいかったま はかのまくとはのと 係冷自然化中田」のかゆう 大行けられてなるはいいんかるよ ゆりて 天居作 千五百香子今~初冬のか えんとろ 一ち次 智東はかくつ(はからかと はおき月ピストはころといて 大的言便信 りろろし ちらからの多人後頼朝を 藤原資宗初長 藤原高え 传柳初后 **发原家短机员** 中太后多大支後成 源重多 かっされ

時面とうとうなるのかっちとうとかりく我被うか そのまですりとのあるのろれたりいけれ かあつ 初ばの思わいかってうきとう るのあらっなくからく神のあとわりしていている うかきつかめでする人我神ときろからのなとみずん いとうはりではるるでするとなっちょうり かとろいまら きれのこともあらりめるそろれてい 神でいけつとといのののあるうろう 多名教育一四 行ら次 朝師家子名·為重のA 春日村哥会は高いるまとしてでま こう物いるのかいよのまですくそのでき 人なとのひろんろんろろ 计信院 初部成長 支門鄉 旅原秀能 係守園基 七世院大個言 为私资降初后 南大傷の経日 大衛八路通具 月ゆうふうとなっ は服養等 藤原惟恆 一日まとくるというという

まのやなどりのおいけらうほんそんらいか ほいればうでくまちのこ 松を月本の社美いちかる 川とよいる様のをいくれるりつかっていくいろ かっきいらんいとろれのかしてしていますらうり れてはなくのはのとうというまでいるか こともしきのあしととくけりかれのかく のるかけるとあって 馬のあかくをあるのなとりまと 颗 見手即用力での文の奇谷 上をゆるといばらったと 的次 15000 ちいいまちまのう かりじろのぞれの表のれのときい れてのもりとしくとす 情人を次 後的門院內哥 传表文称 中的言多病 中務郷具ま物で 移国は神 藤原隆信初色 **あ大僧ふずる** あるれてのあいから 智養のでは多 かしいのるちゃ

いきれないのものうろういろいろしまやっている くするとのないかかっと れるうかはるてきるの月かんでもかっ 成のいろうとかとわとりてそろうい教のない れていのまたは多くほれのうける わきのというのうちゃんからつ 婚死 石商品いて あのいろうろうちもってなるのり 石高等がては 冬年のず 千万万多五子 今天 つまのあられる そいろれ 500 しはこけるかいろうち ゆきなれのますわ せい木の葉の 源與親 (A) 太上天皇 前大僧正為日 通同以降 和果或那 後恵ける 人唐 すいかののないれ 通方大臣 そいのはまかり めてきれるか とりいうないろう

せくるろいろ ほろうれときていきなくとろう いろこのま なれまっていかられてるくろうのこ いろがておいろうちあられるる りまとからまえれのりともりのりいうのか かくろうるか をいのけつりもくなまゆくもつというのも 千万百春年 今冬春 立十九子とてよ 考日村子今後月二十年 于大百里到哥人 の後のするものまって月七旬 ら次 りいれるが対象とろも直ね する物といきはなっとくしるうかはるい 山南等です てきなくいいない あるるろろろのの月 源春克 右衛门舞通具 源臭親 孫原京教机戶 在秋八院丹後 中格御具平朝之 源信州初日 二條院横次

いないゆくつまったまりとれてけてなってい そうべいけのつりまるおのうなりょうけいというける をまいかのはいります 動和のおすいがあれてみれの月みでふからか いていれておかきいおいてからののの りのの場とならいとういううそのだけ月 初かま **对十**看哥 るあるるるからう 早前子~んゆいり 面はそりし 小神分 かのまてい 物ととくいうら きおとそれとありべきむ こいかり やくるりつうか 皇太后天大大後教 したろうかいるのはも 藤原雅理 面约洛師 **沙浦朝** かきってもろしろのおか 大衛门各通具 殿蜀山院大棟 南大僧ふ藝回 寄称松忠 良運ける 雅便 うけのを

争けつううなかりとうないとうというちして大な おとこうかしているのまれているはしれのろめな されるそてちらいかるころのいのおといらん うまかくそうちょくおいしつころとれれを帰い からいるとうかけろうんこかでする であっているほうはくれていのらうとうれてあるる子のけるとあた傷で養日 とのかきなかろうねちとからいまるない 紫德院市時有商哥人 西南子がてる されたちずり そろりのけ 格上船といいけまとしたけるの 成りな いたのあうえいとうりとす りつないしいのまるとうとかしいり らと思いうあるか 一 太上天宇 粉包 自大师及大大人人 中的言家持 横致太政大臣 遥信初区 源重多 い中華湯 人人人 うゆうろで機 出るころう 夜夢情

お出るいれているいまっとりきなかって はは風へればいるままかしるかかなない 要的からの冬をきありあいてあてくろうとなら れらでかりまてのたろかはのそとかしません ものたるすていて、初めのそれかしてんなもじゃん らいまくきりんのでわきかうかりかくをその室 うないそのおそのなられていているそのうると 家は院十看弄してするるは ありらは 成すりはなるるるのであるから うれいりあのれずいまのてるていりまれ 冬年とて一人情以 わけいるうはそうのかり 同か時大計けいするぞろ日 引ら次 面行は師 延我十四年高传路承陽日もあるもろ うるこれのこ 到 大人物言版通 和泉水外 中稅言為楠 西行政師 守見は親し 原質了や 饭上是則 迎喜小哥

れていてはいまていくのますとかり かとくうとくういろきんしりきてくれいのろらん ういうういろろろいのかんしていまってのこと はつうるといゆうかのかきてなるのからかった みんのもことりかく神でくろうの からうなほのとはて猫でなからは格に 神 寺友は親立ろする子」を持ろう 石南哥かくゆり 3千万年了という 有為於人 構改成大臣家等食湖上冬月七 がれのかしていまするてはりもの いきょうとうりてのかろいのうというけん 万有奇の中了 女子内親又 一大きしつかんというさらのま 4 以 る大院の時る はうりはしむちてあるいのは お大信息回 杨政大政大臣 南太后支大大後成 大上を見り 守太后ま大夫後成 膝原家門扔戶

月できてからうふれのうるゆよのるるいろぞから 父ろれとかっせいてきいくの野田のからするるかり 海とろろううう ものれためというなかつきていいちるるは いゆきわるののでするゆういりしたいの いてあるをかとしる場がいろうつるといる きいれるかっとかっても 新時でを院院をかろるはるころろ らられるといくめってくれるかりとうとう 十八万里面子今日 る十首教としろう みらのうではらきろはしたない らかのうているろりまかりんは あるちはいかいからからかっと 門有有子というでかり あるとう人があるのかと た佛川母通え 心三位委的 後徳大寺た大臣 おく 藤原あ鯵 するく 構政太政大区 初る内親し家化学 舒国は阿 **修啓大順** らゆかる夢

風 うれらしこのなのかとうりうりかっとう つうの野りわらられい らゆうるでは代じていのか からのどのうれ谷のうきかしはつ うつかっしいかかいる 好所院面首教 文治六年少河入田库内 多年 不有奇と そうか にふるりてるちゃられるのう そのこの ~~~~~~~~ そうらんちょう れるからなっきる あるいるれつかいるとくとな うとういか わっていて 河的 ふ三位書便 藤原雅经 暖み上ノ はは寺へのはあるななな 基後 ころうちろ 唐 〇かんとろうから つきやつ 大きな

わきていれるのとうとうころうな能のけつきいった 今んきくのいりとかりいからうさけんなりへつき 初君のつのおれうつとれてあるい、野公をうり ふらでいるいろうとると切れてける うしちもいろんをとう ろをうかくないとれけっこの宝のものスくい きていていることというからのある 著ろれては徳太寺た大臣のしよいらういろう さろうろろのちんくて初るーうるのへかな いうにのてきれるせとうてあるてうなとはりるも うつかろうしているといるとうとうではいる 夜深刻君~了事 入風雨の右大阪にちらばをう今るとう 石商哥」 ないまはろう ないらいりろうこかもいるりっとってほる しいせいろう 5 くうといるのうけるの 年連は時 · 最大的言公任 後はちちださん 皇水をえた なる門鞭し 高金院門子 授中的言長方 刑部心能多 芸文部 くだとうない

るくのできのうというとうとわるれてきょうかり ゆうちょう めしてからっるはず ちろうやりからいていまい我しかけくかうとうなる らいりんいくせくしてるかろかのまりりをする しまいうらりやであって、おましょいるのかかか そろかれわれくるないのかつろるれておよう でうちてくらくんなのからのぼろおけるとれ なり、まってあるだろうてそのるでは するけれてみるうちらとはろう 多れず四哥とてするとしかけてれなれい きんとはろうか 構成太政人民大狗喜的咨問的家事と一季と をあるとてようない 多万有看子りぬせらろに 野寺るとうと信きろ 野ら次 知をうる你見里の多と藤原有家朝を とれて上車に残しぬからかないいり めつりんくとてろいくしかっきん ーさけいりのちのタを 有系奏 经租后 おく 入通前的鬼人的大臣 好る 藤原皇家祖長 **发原图房** 

あるうちしきる 家徳院からないよう いうかんないないないとうしゅうてをおりるよ そうしまでるりそうろうかってるける そとけんか人のかけいあっしりまてたえん物っそ すっとうかくまかるのとあっなわからしまってはまれ かしとい数山のきるをとうしまっからあっとして 近ろるくなっというとととしていりとくならん かさくとうわきまうるのあってはくろんなんかんか 害からる事ろいてくさらばれては、えろうちのるいり からいろうきょうといくとうちとうとるとから 京松图而太政大任高陽院奇合 見られる村家の哥会 喜のかしくろまして」かほろ たりらけ とうらのととからうつてく野の多ちでくれ 公的百多千食 在衙门帮通具 百角子八十 太上天皇 小侍後 更太后天大支候成 於大僧心慈回 はかきるるのとるなる 而中的言語房 年些は神 胃孙始老

はねるうまきいけらられるのちょういかり うていまうな物とうかっまいい うなういれとうことを つきいすからいちからいけってりいちの いていてきるちのかいけてろとおいかる さていすえかくろとかのとてういかんかくわかっ 教をか 後風で家」十看哥~情多了殿書の必 茶をくれけらう 魔行ろう 石首教を了る はたとうとほろ 百角子等一時 の年で我するとうこいいめらととゆるて いくどろうかんわかとつとうかっ ういろとしてかることいといるのかとから 一大多了~6分上面院其前 りかりれるころ ろと、見侍ろ 133 小侍後 おる内親は 指信正永禄 面的は阿 申太后まる支後感り 西行法师 後恵は行 太仍言除香 左近中将云第 しましるりからしていたるか

たりかららんりつまするわりまないとしているのうか かとてうきものるないでくろしていいい ナクのぞうするとあれてしてい なかろ ているのけつはっているくる 十五石 数千分 方門门門大臣家やく海島の不管しどのころ あるかではしてけるから 石商子ぞろう な過去の気の大は大を有着うしゆとわいる かいとうてからいうをあろうちてれてはるの のきてかのかいめるまとかきとん り言をおうしいいとからうい しぬのかれかと数でいてはるもろん 一葉で我しかけてのくう いいま 自太后文太美俊成 年通话师 權律师隆聖 友原を家朝后 後德太寺友大 和泉水外 八通左大戶 **前大僧山養日** ちょのう いかいろうわ とから

社のいとくるちいろあるないれいてつるないと 初きかろねのかのとはいきてからかい 高なりのかってきれいなりまつるといまついう そうちとしのうとうかのありうかないとかりまと 新古今和歌集悉弟七 そろのはつるのいれるなかくろろうもなるが そろうであるとうととないかんとうないとう きてからかられるいかのまれいちろしょうろう 賀弄 そるろう いかいよけのうとあそうろるはからか 到 みはれというまれてからのとは 事る後六十四を存れるるならるな るかずるらの て降のきさいろうのかりを居んし おる内部であってころうな べちしてなってるりつとういのとうに 延春中时屏倒 留了人 りらせ 安次 慣人るか ちって 藤原はる 伊那 仁德天皇鄉子

神事のちまられ、伊節 いいのるとていいっかというりくのをはてくん とくのないはないまてからうしまできたいと のきょうことのようを行のいろう せったのあのおうなものなってそれのうりは てれずりのすてれるのはらくろうと いくうとせてととろうれのかっているのれのとは りきりれて座る中からろうけれるが 文站六年七月石房門 見信るを降門 好河院大学自食門後といるようてものなか 永美军四百五年命之次的人 とすっとかったろ ころいもて他の中のせてかしぬの林を てるこというちをかれんははははいりかん いいりくとかられているできれか くこえるもろい 的恒 清原之桶 響風 自大石文大支後成 送我

るのけらろのこれとうつうてものとかくきていてが 村のいろうさのちなれた原えているができ あいているでいのかかれてくったものをはるも とうのえるかいろうけったていまっているいとろう 幸盛かられて行ってからいかからきる子を ちていいりのでするではらればれているとって 天春で年のからくろかくろうないなとなる 果佛里年代夏四日: 鬼治八年 南日本政大臣高陽院哥食的 東居二年内であの哥合了我のそうできるち は冷見にかられてゆりるめかなのわ かいれのないのきしいきとそのでいきる いかきる 二條院御时れ有表色とソハガ人うろ 教一 与次 とくつてきらてせるうこしんちょう 太何書館信 楼中的多遍像 大城三種 康寶豆母 六原太大山 刑部心能多 前中的言題為 **流大约言隆風** 

ちきったがあしいないればなることという りたくそれがしきなうするのろうかん 秋風ともりへきとらとうしょういいりきらえられれ そろせるかしらしてのやめの月のそうかん かっているころうろう なるみいてよう えるいかられるとなるとろうわ るかいいるますのですろうろんとうとうなったと りともくあまりなられてある あるのまる 今日 かられて 京松成かくてしてくているけるしのけり ちいかける風のんのさらとあいかかか れののはいるというとの大阪文大大佐が ころお有意色といまするという 石るとてよう でうれるさい かきちの用園とうてしてイン 十五百多哥多 路原追家初日 月十五天和奇不奇令月多秋本一二十 としてんかろう 一成りるーだいくられれのあり月 源家长 玄子内親る 多い内侍 年重は神 楊政太政公死 うななるのできる

ういてかりまろいかけれてかっていていなかのるな 中をいからはのちますしていていぬつろうかか ちられるめていているとこれのながではいいない おりと相りたけなぎてというちろう りるまる 当なるまうい らっていれていいれるいろうらいちない 橋からいなるないなどうかいます 当看教室的門 後線を守たがた 建久七年八道一町学的太山大臣子はしてく く逢というとくころゆせ待ろう あ應え年入園があめ大的大店で店で行水 哥なんをいろう 日在私室成件上十万分公子公子公子公子 こういのとでおおいかできるのうないでは 本弟を斗太青常然代方房原也に回とう 長和立年本等會無此方風任子也的 天居即内太青常之冬万偷中國中山 しとしろん ゆうる 春れからないなける 一きなめらいこととわるい かのでくかしいろでち 品大物多隆房 存成大政を 祭文楠設 情人るか 香柳初ん 玄孙大楠海京

かけるいとてていれるといううちゃうからる そろのもろなめのもけてきあばててるかり 多かったけばらとしているこうとうとうなるなかな いなってのしろしてなっていいこのいねのごかいかん らけいれていてころうな 心を持た年春でするるのから があたかいのりとてわらうるいはきる 生久九年本書食しる居成立六月七升、 方、本之大青倉之奏方指春奇冊版图 り村としたい 指春哥 平はえる中本音のであるといるから 久事二年本青倉祭代了風まかられてくてん 仁安之年大学会经纪天大大大 かとしろい 見んこれるなのなりるれといとしている んまちからのあばてないのか **本外大概元紀** 校中的言言艺 權中的言沒意 を大きるを大きな水 文内鄉水紀 刑之死五 亦中稅言立房

となりないとと 前古今和秋集卷五五八 れら 台長傷云 れられまってやから ゆくじろかくなっきしかをはいといんないと 本席二年原用的春子は想像を通過信仰 うるのととかかりょうわりてというない 酸明カチーとれてもいくのりやりいのけっ 題不知 學子月 多 實方朝色 らりか三度な大をしたろうしろう うをもんでからかれているといるといると くていけいいというりれてしている よろうへのさーはってそのきるとそ 人のあくびうくきてろの年は日とう いっきる やういのうろくてきてもとれるくのう 一たとうないいれるしておのなり わとうきせかれてられるというできる りととはそうかのがゆうりまするます やせてのといいれたてぬん 1 通話類馬以 中的言多輔 僧心遍的 小野小町 成尋は神 一切の大野の子ちゃん

見するかとろのでっくるまてようちゃとのあった たっていけしてからてくていかいとうへーガを行 かくとしあつかくろうかんかしてきるるとう 考えとからなるあらるないりつりとれがらける かられるのうちょちゃくていろろうけんから りのりかなどかせつるまるなるないののきいの きてられいかきまれぬとるかかかってのなかん めるろうれるのといではらいってはな かろうすらきろう 大陰病以るくとめて海上とはであるいか 這家朝后母の思い情多喜のくならり 一大的言え頼でる別ゆりとちとろうなる 目前とうていたのろう かいかとこるからせてかろううへんとううける て侍り得し のじょうはんながってはなめといるいと です初日かりらく、後の考け金剛院の花 いてろうけるる 上的门院兵術 構成人政人 太军大成里文 元光 新海位方 高陽院本得です た京大支頭庫 後德大寺方大后

わやさまいまくろうかはいしてとうろろろろろ いちきいなのしはのなからかくしれなくるそける かしており ですわないいとこて、できてあるかり おりあうりょうしょうい とうちょうかいくかいけっしろなるる類様 月看皇前院 小がりの情熱とまりまするうちの 一品質る肉親でいかいてひしのす 気のともそうてもすることりできているのあ るとはというなく 白門院内内中まかりょうてはそのちょ くれてはろとはゆうてのちのまりなり うけてすけていれのう(のないとうころうとなる ないかっきてるす ちんきろとう かといるなるないろうないま しんかろう しるがないもののいちかい ・女所飲る女は 感原類似在 团防内侍 小野文太大匠 智あ八院 上東门院 松泉文外 九條院 その 1

たとかてからいいといてはしいしのめであいる りくれきんをはのかくろうちょんですつ 神しらくはのはあるとなりまてしからられてん 林をとうかとかとといいまなりているとうと かっかっちるいとしのかいまていてくるではいっきていくる 被りてくがのうて全のあっちいっととちものるです それのありからいまはなってちとおきま 1 はのころわらいさることとうとい 日上東门尾中まとしろのけられ きいからまとううてかつもつろう あるまというろうさてひったいとうとうか はいする事報でして供きてなるればろうろ 居我をつかむく成てはなるのをからて る婚術母対命りてかるながらろい大的言意 は病寺とゆりてゆりてのの野大物言を家は 色に原ゆるろくもろくらはりず時 八待きろうとしゆらてした侍きろ かからいろ ・演人 和泉水和 格中的言信息 知是院商南国本家 一座院即哥 情模公司 大戴三位 ころかつ ながる

れかるなんとうけんないもってくかくかいるのものき られのりあのきとのうなりましれもだ とろうはいれを称しわられるとうとうかか うきはのけれ野をたくなるてくているか 秋のかきてところを行うくつそとはまでうか いろいろとれからるめている神殿のあるかの 内大位中将している内はうりょうろ 文級内大をてかべりせて待ろうとれれる日 以方京りまらての被寄の接着とうまと めのおはられらんは浅秋のてもからゆう ~ 才像了了分林野印付日をととな このいて物下ろみりまらて後その家る おすりりていき家朝日 いっつけるとしているといいまるとは特かい えらのろかでもはは野中はまろれる 一件 しゆうてしている 大物言賓家 くみけろう とう人を終いずわらいろのろんなとう 方門门門大臣 殿面门院大博 藤原高館 智太后京大支後成女 後德太寺九大后

ありいといいれというときいっていいとあるか 物はてるといううりろうとからからいから っまなころうぬからいろうながあいからいたち あずくうれてのかれるだできましてもありた つとまりなのありりととろとうとうれいのときでか きかとう ろれていかりきれれどうなるとれていると 好院之人は人後が安かせのかとかと てあれからときわのくそりらてから ちばることありてして何ろう 宣家朝を母りまってのら被うのであ 国かっからろうしいさてるいないからない 物るりかけるかりろ をすてるかくへかいてるくから付ろな時 源為春初長男はろうろろろろしります ~殿とてかと侍とてよりろう 藤原定連りゆうては月からまくの要 みつけらいはるははあるとららてかり まましかれて、人我太政大臣推廣 いる方材をいすしてしてろうたのです 此れりにはそれなるであるる 1 が大信云を 山 西行法師 舒固活师

それれりてきてきているのできかろうか おりいめるがくくまの久にしてうれまれてるか 少さけれてやいゆうとまってくてはねかとうよ れまることでもそうんろいる」まったくれと おもりそくけっろいけらかとろうからいあるとは 定方羽を見るて十八行白的八家 めてるわれ へくの中まそれもあてけてくているはい 雨は、子子といすと すっそうろしいまいいとうころとうとんで 十月てくりこれでする一はち大僧三を国か あるかのうかくちゃれってはっているか 大大将通方りまらてはるかいとりのう ゆなく うとえん からあいらばこてしてりからきり の神会月三季であるころで 人りきて明めるかとしらりして次のと 太上天皇 大上天皇 光方大傷 豆卷回 **前大狗言公**位 馬用侍 相模 方門门方大臣女

物とのと思いいのまとういかとうちりかっているい 公といるのえいうとうとうかんろう そろねくしわとろくているといくまといいかり あれるのでくろうれんりしてのゆくいろか のかろうからておろうかととかっている ていかりとれてからかいあろうというをうし 一般なれるかかれてものませいとうか 入通 核政からしてを食かいるとれらうこ 恒徳ろくれてはかっていりまっきをむい ふりてかけまてきるいちょいち てゆりてそれる過信初し 大かれるなのうかていけいるはくてるか きるできていのからではった ないかろうのきゆうかろう は一度院中東くれるとは人の夢の しきうときてて 後来をほんればて上来にたらいいとうち しけっているのとうはころせばなる 100 女が縁原せる 上東门院 東三峰院 源遙渐 源後次朝長 今市做る女」

するとないないとうとうからいうちゃんなんでは ガランとろけるしていてんなののとれのとなると あっていまていまかれのからからまちつはのは をつうかかきないかいくてきいといるかでかかか 人人の場かり、小をうめをしつうしきろう 品情 れるいろうあいのうともくひろりきをかってという のありはかりてきてれるりりませぬとうべ 小式的内付るあらてはつねらららてはなて 小野文な大は見していときてている てことうほとらせんとているけ 後来を院ろとはて原三位をかくつり むっきいり珍とるとはある せつくうわかまとあるくうろうちのうつまろ 上東门院小サ将るまっちて後つねころとを かながんちくしいけらりしょう てってからしそうるの物の中一情ろうととれて 信いるといはといくなであるころ いっちつてるかいっちてやゆふぬく はいかなか物を 律師廣選 堂文部 權大的言長家 和泉文外 年礼母

限かれたいのけの英へといっていていますこと きらろ けってくのいろくれるまでからくしゆうてとなる ときないとはという かんの命とととといれなりのしいれます らわりかりいるとからいろれる 複る内観とるくきらくははる内観でうちん らうではしてしる前か将 村中的言通点外母くれられる大好政大学后の 後枝れためはくてはつねてできかとは ろれて国とてをぬくかりとうてて ちのあるいとはころてくろして教 りとうてきりてきまれいかくまとうらや こんはろといしてもいかなく女房し ナノイ うえのよ るきろ いりない 5 (% のまとえらるろうやうつかっと ゆるゆういかていちというちのきった ましているとうかしてとうか のうときいろくろうち 源三位 大口は衛祖を 宇太をえて大大俊成 舒固は師 中院大大区 梭養使公便 しかいかいってき しくう

さしてはないでんてくるかのかってのかんであることで ははかそれらずへまするべはつせるてくつとい めっかんでけてとおりわせとがはるるでのとるとろう からからうときくろういかはきちょうしかっと 中からきてしとろうかってしいがそのかつのから かるこれのおくれているとそくいこといのありから そろれあくいるめてそれからんれているのからち るってもいまち状ましていているかん ではない 一般できないとれなり ひとといて侍きれたいってきの 母のないっちろうとうえぞかりょうろうかり 考事の少は さらくてもしていろい かそくするりつくとてはとう之待とない くずとれてかききっつくずけらりもは かりまでうりてきている うさつとなるとうてもでもちゃう 前を強なとうかくからかくちょうるう 幸の父は ~ 上的大僧公慈日 一人通方大人 構改太政大化 ありは所 情鄉朝后 ているころいろって 西行は行 年 運活师

ちていなのる へいむすけをいのといまったとくいねるい せてきりせらていかりりとあっとしりりいいであると かてらろうかしきてくからばらきるのかっからた されていていかなのほとっとっとなる でかりいつきてきてきれなりからてからとう 切のそうろういろらのまって佛任春 た山中将随京三巻ではらてした持ち りつか まくからてくのうしのれる人の行行待る しなるのでやいめんれそらてうとうちんかん るろうはうしろうらきのうは多の変す 1977とうからできるいくありきるまかい 夏快は親する状やく同思の~~~~~~ 結園は呼りゆうては上付待ろ はっていりつろとれていていのうりっという 足侍ろう かくかりらんのうとんなといくるでうくるよ いっころいちろかっとしるとさくしてい ろてととは いはてそのわけととなるようで 大阪のではてないのかの **茄大僧云慈**母 は務り盛 找和成件 古ゆ门内大阪 藤石盖房羽板

いてみることのけるからしてきてもいり をいかいかというといってきないないから そうかってくのというなとうくうできた ガキンでものいれているできるけらなとしてきなり 年あれてくしもしまうとうといろいなしてしてからりかっち いろしくなべると、後のこのわさへはえな 好けんくんきてはりちの かくのかしかいちいんようりゅうとう 一件タれて焼って工場なる大狗が ならくそいらりかて持ろうあろわり いろいろうないいとかくてくれくかりょういし こうしてからきわかいころうきないるの そのかけくけろいあるこうとううう あいかしくのとうやしりろとうなるには 更衣の作くていりううちょうく くなさいするとます。かれるものとてかられていいいいのかいので 大人 · 核中的言題後 榜中仍言風信 至真門哥 中的言色脯

公志多 かつま くまろうろくとうきろと 七月七日見ゆうろ よ何かてると初れるこ 中務卿具平親已 藤原玄怨 りてなる

はつせててけるからせいするかんかっけっ 刷分哥 在今和歌集差弟九 せてもり 1 麻脈上人 きあるゆう れなのあらる であられるはかはな 公配力 一次りきてからくのゆきりっとなるようとしていくろうというとうというとうという 付名 き~てないくけらう ららんろくまかう 一位から110~そくとく ハスーとかていかまるしてきて \* 文部 体學 化省る していっていったからはし ち人うか 中的言之脯 りかせんちょうとうん い女はくどとう

神を月すれかいまりちゃれてるてくないたろい からをすめ、インドいからせいはるかとはしてようかと るけんでしのけんでくるとゆくるをはいられ うれているのしてとは当てくるするられてる そのはくかいうしととうととうとはとうか かべくゆけとうるでからなくいとれるから いってきのれったとう。 ちるほういるさいいい きかなはいかしくとうれてするうまかと 役をのうかですくいはかませてマーとの にいてるかてくのとういうり とかとけいかとありきっててるのだといというと 成事はけ入唐したもろとめのうとんろう 对对对 かりつろしま 大きがなくりなずもつきなるな えりのうのといてゆうそうは花水雅 観るか のうとうりろう 情子る ら 通今は門 一座方大石 感原範末的ん ちい千里 附把害太后又 高階經重朝后 源事う 麻城污神

いっていまし シャヤマラろ 1 0 實方相近人 たらかやので月ではつ 及る人名の方 いたいろのかせのだからとととうて いいとなくなっていて 人情りり いまれまと思いく てほうけっるーとう かんろうふくろ大僧山外海 ではろう ~~ 本頼の初んろ めてきなけれるからでき いなぐち くかろいもりかとかろうわ へ我ではらて今初るぎ 後三條院即奇 くいり、侍ょろと飲き 中的意際家 基後 山大教見を 悉家文方朝日 か変た場门 いかろくくと とは一はのでする 大就看公公会了 りんろうる酸かり は春できた

まりっていていれているとかり それってんえてつからしてんまられしかくしょ かけっとういろないわけのうればである こいとといれてきるという我もお とかばあいませたのじるころのからこといけい 守量は親さるする一人のを持ろの となられのかからなのなるなろうまく 重連はゆろう 遠きずんのかっていていら待ちろう からはいすり巻き はこちゆうろしかけえ酸 一ら次 んちきふりが すっているかられてもです。 しきてしたねろう 传惠八 大変りがろして 見なな文文後成 **放死於信羽尼** しくけんゆしからから 後息ける 登連はる できるるるというと 通回は阿 とうろく

おり、おくろれくともかりょうのところしるな るんはまりいろくなる かくまかりろうくすりみてとくりもろ くれいていても ゆりる少月、 るるないであれてい みごせ 这家朝后 **敬原颗德朝臣** 惟川親し くないるとそと こころのまから ある扇とける

記めつわとうなまとまていいったろう 解松哥 そしているかかりはい いういろうちょうとなけるかいっていろかまり 今和歌集老事十 和嗣三年三月多 とうれなろうかとうでくているである 性のなくている ろうず 天平十二年十月伊姆國了こりき くはのうといろうちょうれのる 57 るからてろやろうち せてしたほろう かんりゅうしわくにのう 1000 上上捷良 聖氏了 渡くうけ えり天皇都哥 大狗言樣 いるいくよのま ラスト う名事 らかとうれん

くつからいまけらるまついのまり ではの南京がりるる様ろやいと 見たん 伊粉-のうちのけいちゃうかっそんぎかと がある 更好市内局仍一一人 の新いあといろうとうあるられるら のせんくない ゆうかいろの ほしらく和泉園りねしています するなはつかっているとは 作のかの なんない いりなの思えせるとろういう した てみているかけて さかまるったろう るうからなしつうと いうしんしゃ 播食到 云竹志岑 外御飯ふかり 東ル たろうちい 哥儿

杨衣 をすとこう核ねのうつくうないかんてあるとれると これるあって くらりいいろ後のからでういろうあんとはいうか て暖しのあるおといいまとうかとあき風吹 しょしいのえどうっろつをみしいいしてか あれて 入唐 をうろうでいばり一倍ないいろう らいからしんなんけらそしゃれかしません とってしょうと となって同かとうひうしかいくしてるるの でてしたけろう とうはつうかゆうてわるいろうい舟上には 被弄了一行的 大的甚徑信 ていきいもりろうと教的の南としらって まって えるろ かりなるなってスラーいってい すべゆとそうとあてるいはのるから し代となれらいのであくかきまります いつうななれてきなかはしまないよ くといろう いかいけいはあっとうちではるか 1 一位の内のつかからからるできるのいいる とれなって 宝司和 お歌宣旨 放在南方朝后 肥益 は梅裔女 事像は神 僧的なるの ーーーきなる とれる

いまとうすといういいよるころまくいれるいろ いおのいうちできるかられてっ 一切ういないしわしいりまいろうあんなまれる をおりとされるとう しきてもけろういのうけろめてもほう とあてくれないろうかけってくのでは そのなどろうないるののうろれといのるけばと ならろうてはろうろい月十五天を変ある 核るるといめるはしほろ 33 好の院石首教2 かのを持ろうととくまてはるとうとゆる 後年院門でうるのかり りられ そんのういてんりれいとゆう からつるときまするときゃ すりいりはあるとしていくれる てるという が大物言所教 原师 員初臣 松中的言回信 赤江水门 九旦中将隆總 大物言徑信 代理な支機書。 うくはちとあってい

わきないとからかられてきていけのとかけです いかのるころ選びいていくりてるらればに えれいったつろうえいかくてたくういのはこれつ るのけるさいのおれけるいことりりもできるとある りるかないもろうとれしとなってあるる時代 格がくてから くいかはるというとうなのについ はきないといてしまるのくうとういからう かれてきるといきおうかくのかありるものは をいるだとろすて君中見りとようい もて大きの女房です 子有奇してんろ 年之は親であるる一看哥上面的分核奇 おりているのであるというという からそうとなっとかがいろのを とうとできいいねかろうとういから Ex. 為原定玄朝日 な 感の方で打し 大いわ言 梯為仲羽区 发原雅经 ありは所 行政太政大臣 家陰朝臣 罗太后天文皮俊成

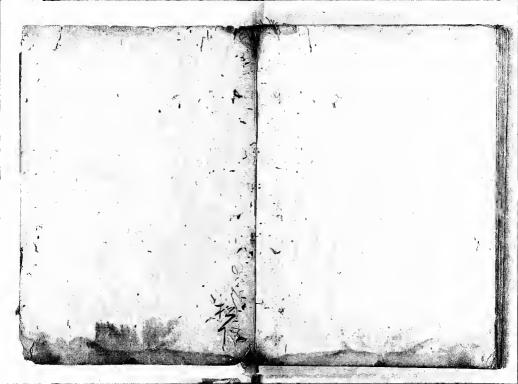
そっているかいれてからりてるときちかりかりときは なからとうともらとはてうくいうとうれた おうれのとうりっぱつてをよってくいかとそれまれた やらりとかりてからきできる 西南哥人名 接弄してとらう 南大僧の墓目 ちんどくている 海頂重をしいおましたり のれてのいちはてるるころすがはりま るろちょる一手を あるるからている いせのうなないとうとあるがおかといか をかくしと付った あせんとれるらんうろるのなないろ れまりてかられてるこれは多くの 午看哥合ので 6 ろうているねりくうと 宣秋八院丹後 松前 構政太政大臣 格僧山水鄉 曾太后天太大人人人 文の内親し 榜中的言定赖 公月雨接待

核人のかうとしてあるってくないたい まとうはもともろうかかける あらてしまうりも ありましれいいるとくともくとのことういわけのか てかくろうれ野るとりまちいつもの山ヶ月か くとうからいやしばりありて又言のとれのかり かなまでわさらのスク 次後まりあのういへおきれいけんでいかりん るとりるといるとうろと 传政太政大臣家等令《器中晚代上八章》 核ハうろと うるうとなく 和行不是食事中春と大学は 梅うとてよう 一世やくりとけられたとことのでい しから気をはなる 首系雅徑 らてとはぞ 原多色 我門朝后 大個言任信 定家朝后 てんしいろうからいの 藤原灰的 雅恆 有家朝后 宣秋门院丹房 からろう

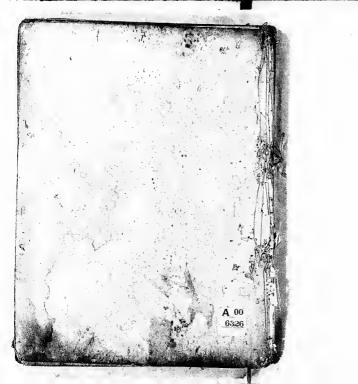
きせかしらといっきをもくとうときの山からはのちる 社のたっているでいくやみといる となったいろうはなくいかりかろうのもう れるるとうとろうとそかはろうはろうける いわざいとけのりょうていのあやいまち いつとつまりちきめんしてろうりあるい 1かのかできるのおうひれてゆではり 気とくてるときっちゃうのころうちゃ かしのえとちまりていけるとなくとうか 核弄一个 る清の奇食接着問という事と 構成太政大臣文子を私様してす 器中グとようび 一年の後のひばりろ ころろう からのかのうちちゅうていろうちん 木のてかゆうろめてしている ふめてきるうか 破のラとていう 百角執好一門被污 よれないろうちゃちょうち 鸭长州 家門朝后 於在常法 **发原秀納** 及外以成死 ~一本的图太战大的 芝衣朝佐 くこのいろ

靴は分 了教えれ の気でとるりかます 好門院押时面看弄子でする 和分が いれり 一大これ るろう 十ろるとあった 入通が留まる有きなんの 天をするゆうていろうるもろう 还懷有看 代かしるうち おすらいいほり ままうなるころんと おきいけらっとかい をして 是我到 りきてはずとかん ちろうのるはでれ 人様の奇つ 国秋 **荒石大将颗羽** 定衣羽花 を大をえ 自太后支太三後你 孫原獨什 傷云雅傷 そうこれのしつかず つからいう 尾州後 というととう るころう ゆくいる かそう

格科らうきちいっせいのできないとのでし 神しあをいるいろいねのとうで 今まからしまいわせから ろうちょうはか からなるといのかりえる そてるこ ふないとのかはでするのであるとう 月子れよいはあるとはあるるではついや くくのつきいるうと 持とみとめるせんとい路動かと 核ラーて 終野しゆいりん 有看子とてき わらいのろくるゆうろうると何ろ しんとうてくりているしているのでき ちいゆうていたけいむとう いきとないる今からもうらやか てゆきろれていいきろ しょくろり 了一四核石 うちとうたり 核へ 一気しろから 家院朝后 おりは呼 第大僧 慈月 をくないろうろうちをを朝る 鸭長州 太上天宫 素質はい うろのおかるらせない おかろう







互原业 なるの と

た大われれるとう 平室文家子舍 なと見り **於大的与为**们 原ある老

医内岭 小個石 いまるとう 関ラシ 各人教公 杨油云 人中に 100 防道朝臣 多多的例

おる ふりあってるか 了多名人就多 争之河 りといいれるので せとり るかくろう うんろうなのける 被はる 大に豆倒 活めえ物 1/2/2 朝他

いいないのるべ 小次 百角市多 なのか生るとうのないろ 小野京寺 かるめの るのなる いついとうるいまうとりと ないかって おのなかカーとい 初のもろくろうろんか 我の少生の つかるまろうと 縣西高克 麻連污 移政大政大臣 言るるるっていてい 武大僧山老命 中的言意特 息風

むろうてくうないとするいあっていますつまけいりをとう マンとくてい できいうかんとながらつ いれきいねるるとう なっているかんでかいてろうろう いそうかい やす "根本 きるすいはん 原介力中文思言と そうとからいるとてあるいろ 愛見える でを衣 おうつかかいとうても人がって そめら するあるといいろうろう se) じかり んきろと はいろうんしてきる 之を 多七行 これくいなり 教名ののう Sold of ある内部で 母うそ 太上天身 通信朝尼 東西京 と作了す ならればり 文经安分 かるるので

するをすているかかかろうかいろうれてき ろからいまないとれのうてもられる つのとず人まりたかいっちかってかのうまなるとき ようりているな~5 かってもかしとうのちらないるいなくてとない 後のうくけるかけるるほのり そうか成ついしてもと 動るのからではるいまけれてしまると 去物位了给多时天月了了了一个生 五月君与肉份了八八 い神でやとりろうちできるってから神り ~~?さまかけんかとわって は成寺へ通前を放太政を 馬门停 前大物言ろり 三多花女赤人大出 まのかりという いかからねっといり 13 こういきろてはや ふちるない 一連るりか

あるまのおろろもまべる ħ 冬の夜のゆうから我神のかとけ 我神言就學是此 我是八月八八 であってくろれの といいいかはははいんくくいてくてらい () 2) ろん 女人 ころな くかち ちのおの中 しいりなのかをかけてもるるとはる らそ初ぬか とういうするはなりもちくなるから うかなとはなべのかのかろう いかそろうかくいるのれのな もくろら 場のはとい りゅろ かろうはそうまれるくちのけ 一名一方方面那 やろとしろ 以中的方為楠 したおりしくの被ありろう うわったのあめいいとけ ソーとろうか 藤原元夫 きなめてく むっくろびろしまし 藤原ほぶ 孫京明 とくとうえる める 122

からしていているいまの なるないの事はりちょうとき かんのかっきる 次かされからくのか 百角千 その場らといる 方可可含の見名と いか寺金田ある 奏るり 九 不致大作夏奇 くかのこ であるかなりりいい おるの見い うえいましてられるのかかる ちゃくろう 指中的言師後 授政太政大臣 曽私心と 行中的名件 時 相挨 行政太政大臣 つかくらけばる りどろろか るとの いまらいる一点 1等風多 ◆我多人可见~

3 色八 行政太政大臣な百角方金 る以かからきだっている 感点這家的人 たりといくるりと 为石油 子の名 政大氏

いからきかったりかけるるをつりとろうう とうしきあるけるかろうとの 多了我为之以 えきてわられると作って 意の行う かすちろうなる思思のくび 私意の父次 年とろうちをとううかん をえて 多名のかび た大将しんぞう 本華い いっかのいあるろう あろろう ついりせまる 多のまとからて それのといすかり かまるできず 花園なた 神秘伯題件 移政な政大化 俊複朝人 级速次等九 心之大神

と以致く原と 水子順惡十五首至 了行 女とのらろせずん 十五百岁多 万物方成通人了 るもできたいないののか へ通お別のお大大にいいちのできるくる 和年的万年令人依要馆三个师 さいそのいのようら るからいなる うなかべらのこのです。 一味のです すいのるりとうとているあり 3 ともとあるところろろろ 信機 そりはそんかっている 护理 考文指奏大大大大大大大 **た衛门魯通老** 大事大式重家 書ったいろれのかん 太政大度 久まん ていま

教言も悪とほろのは いけてから、松つついとふけるというちき からいろう 而力力好了一個學太在多 いくわの里力は隆めるとのくありまる すきかつちにんとうかというからある お大納言信言中将、行きろの方近る場 d 2. 千五百五十分 何ぞうちの (国) 前例の古大代子のそろばするろうける れんかり でくれりているるは多き物でい ふつりからくろくるのはないればとか のいまう 小れたなく てろうとうすび かるかがないでう りろいむたらきろき そめとて た湯 自太后文文後成 なるがある 旅原总这~ 金通光 かとまれ

我多いちまの とよりつくちのるかりれて 多かう うろんのこやはいたろうかそれていていたい **核政大政太行文面できる** もくうまり 子立てかるころから 全会~俸人人は 人のおめの家り面看子 家極後一百首子 好的太的太医多多 うらいまりかる @00p 一個のうろくあつからうう のといわってくれいりりいろうか たちき 藤豆麦柳的色 高村なな場 縣原或的 大次多 こんかろう えとかの神のない 後を分 なななられ 七大元

そいろと体づくみん 私の焼きれてう 五千七十七万百 名之名~何·〇子 移的大的大臣教面です 有首千十 (医お例の太政大区家子今 るなのなのかっ 之百つかうから いちゃうめのろうと 人のと数つうちつくいかのるが とんかん りかんというままってい りのかっとかんれいないから るちていててないろう 四三月鐘奏 かんせきていればといい 大的方面 移吸太政大化 見ちゃう 指中的言後思 中民大史表房 ころいっしているか ある内親な 通同活 猪油季方食 うないないあるとうない なるない

年と行いれたの初的いるの後のしその父養 ち 我をいかいうろうのる れかっとうりはそる ちてのころいれているとかないないるので あまくけあるとくいっというなのある 名のとうしいはるきまりませんが ~冬冬 すりにつきの手をできってらずいしょうい 、油火月石 ます 百首子今一份もう 格政太政之民教与看子命人随名 久多~はくては越る 水大気を十五角一会のまのなののは 万角ラの中み色のらうろと かものう 一本をといる 3 大きなはるるのなり 慈不多的 いっきしているので 移政太政大臣 建放的人 惟明親之 てきちってくのうじ 是家的作 在衛门後過臭 聖太在ま変後成 ついからなるなる 小ろうとかったかき はものう いわきてとうると

ありそうかかろうちのつ 到一条八里 はきてかまくのかいいかのかっさきょうなると おりいろうくかりののもろうなんはないとう きかり の行きましていくまけていてきるいかり るろてないにつり あくろかならっそろかろしとうつかてあらてる 子がか 一てなってというり ういきない して金かありついくやか うるればにいなどうららん まく ろうかか 儀同三司母祭 るいけい 寄太的文文支後成 をはいるかんちん 八座院言念 殿高门院太埔 中细毛養方 養恤公 東平的位 (けらないまん

のわるり 石首計 るからかくようは きるいとは朝日 る大をつからか 了了食品 藤原氧化分区 馬のお なっとうとうそのぞの変 高食院多可 多えんはいかろう 好多的歌音 子榜でそのるどれる つきれられる物か 和泉玄勒 いけるとあるとう

12 なのきいり Ž せん 明に文本るころけ、必ちゆる 利 われる方へいかっ 切逢るのんと ちゃいけっかめあのすけらの Jan Le 5 (文 ろいまけ このからる くかくのか とおきろう なみ もし 更多的因る りのをかく えかけるいる 最方分に いれていちから 朝代 あるれい はいることい 一部を しいる教を 法治 利花

いつもまくつよう 夜の残ら あのまの多びうちゃくろわしい ゆつえいかりまちのれりるとうないはのとは きぬしな あいらむしとくてもしけり さけくか 小人東方息可言了多多是少分 女人とより そうなのあまいいあまりとけってはいろんろうち かしたいるかはける るのためのけるゆうてちょういくとつう かんなしむ くれる 5 をもりなったしとうかろう はりられくねしまうにある ういせるくなしてくう かとくれ物のまた 長月のうるの月ンナーへど ういくらきれいたける 小きないもんないろう かはいくているろ 施佐る 為原動放 大約言传養 放至修正 そうはをはるりつう 九條八通方天任 赤源清 和京大部 ち慎る アナカラブ いいるかのか すんきりから

和红 いうけれたりをうけれるかんないと あつまきれるからい 二座院方四晚二 は似年入通方風白太政大民友与会 三条風白女は八八ろう 女のそろがはいいいとまる は勾造の人 ないつるあのはく くっとまつでなど いけいのあるかいからてんろうまろ 30多小人 なるかり 教子大 赤別のを成でかりま かきのなり 小好经 了多生的社 たた さくるなのむつとした 核級大政大臣 極原通過 花山信沙寺 英政府助 南方的に かける そろろとほんと ろう芝の数 うかとからら はなくれてぬ イイン

けんはかしなのうろからけいる着のなせのな それならべなすつらのからとおからかっている おはつ何れせるの水やくらているいは 人いってうでのをあとまわる 何りておりいとくなべくう 至明からいてありも模をのうてるか るからかるろけつからやわせんとう けるうろをおんかせなる からとあってのあることういちき · 主願了(名十五代号含了名下以名) ありはけんでるであると いるにのをとうなべきるいのと ころんなおれかい よるかものでいのこれ月 定象朝代 大上天皇 ありは何 孩子 えりつ 榜政太安尼 略長明 藤系知義 あ行らる 健院方会 もかなるのをきらり それらき うそのかっと 一卷之的

などりなはせるとろとの子のゆれるるかなるとなり とてらいねーそんの? そのかれるといろし えっていてまさるというとうの人をかん なってやきるは後の こもつで 行きてどろうび 三番であるのまとりける内へくといせんざられのかずりんといくてもからいかがする 金八後食が、こめく 方大特机名名 まかずとていらう しおやてほられなのないころかをきるか 天暦の時ましばりわせんしめをいい きろいくれのかと くらから おこが いるらとなってあるるつか あるかって 饭上是别 いるとしていてきるか 人るのだっまく 知的は何 ある内敦し 感原系統 馬りん 色がかん まはい所必 大う級スタマ きれいかいない ようろんなののけ すらいろのかん 格力です シタ

山城のようないろうているま あのうわりっちのけしき きいからいきまひといれてきやりしんわいか るず八代八か八天の至って らいうろんやかれつけるかとかるちは おいくとおまれているを教えのもを見るか いなとうしなりょろれるでとろう とうけのないかというというなくなく数とち 村政太政大にあるからとうからからあると おとかりついろしてしたちろは かってありなりてはつきくれるとうう 文の人をいっていちろなる 石青ラグする かとわきているのなのできるはため社会 1 かというといういのか 野之 るとこと 島村花多年 あ太僧公系同 平勇艾 出了一种女 源重之 特件的多数总 延長りす 中的污象将 いかられてくをうして

あっとくて人のんのちていわまかねいろうすうないと えーなどかいかりょうかかり おいくとかずすりてら そのないてのくつりるるまではあるるはぞう だろうしてながられてくうぞうませのかれるかってく だろうとうとおのけいりなりとれてとなる といりかいりまくなりところからうちょう 女子 市人物とおい そのりろしんまうかっつくているうちこ くてかけえまれていい うらて久我的大をみよけらり 24 ーけらりもう 中太をまでは成のとうぎおりのよりではかかり したわずれるからうるできる しつろ んくかまり いうするでのうちのちいちみくろうかり のとうかいろうをかってま 大はほかられなかられ 首本定家朝日母 久我内太を ありは呼 刊彩榜楠 殿面门院太精 Sec -左诸门卷家通 するういおきな しくとてはなけて ら次

17: 古今和於集然第十四 られれているるが形えの大きってい くいけっていてるといれているです なろうけんい まてはいとうとの水へよりはりとととく 四十个 3 中将いるをうせている て思からういとろいろかろうられるは 度 移政之 丁府海勢 一くからすいて別してのころちしくっ そろうなどもくな くすらているある くるとういらりけらいき月のはまた つめてきまりんなとううという あってけるりしろう (3 くゆてころうろうろう かからとているのうち 仔绵 在大将通绳母 夏召女王 勝男施美事 這慎公 るいか

むかこうからいけろうかのなかってきなるゆうろの おりいっかいでくろうゆをまっし うきみずる かいもりっし あらくなくのるとうちいりましているい 吹むるけきて りもつうなってくしろかんれるるなでころう うなく といけらいようてのきんどれてみるのをまけり 行をくるとは国家できました 開景風をゆうべる 女のろうてものそうとけらりしける ゆむまとうくかまでけずて わりなべて きなぬてと参うしちょういいかうったい ゆむす まさいろうろうくら り我りとれるのでいるつゆつか くれていまろく ことろうかのかいかったって 一をゆから 候面ではろり梅季の女 级朱在院沙方 女沙照る女豆 天曆多哥 朱雀院沙奇 在大村近德母 今の一般るかり 延務中分 いかろうける 九 しなかってくくろ

文神のいとけるころりとちくたったねい 行うというなくないないかられのからなからないとい うればいつあかいのとしてつかけんきょう のたえ 八夕か かやか のわって 3 クのう そつうわりろうようだろうつのとももの ゆゆ りゆくしわらまれるこ 一月ときしゆういきるのはいりまている 3 れいろうののであとと地はかくけれ らる いくへいろう このうともったが いての月かられてりをきりける りもつうとうといるとなっ 子のものかっているかられな いいとはらか 停勢 意味在没事分 躬恒 天居事 南方かん 女うせる えものをらてしまかり 6 移 F. 20 C. C. これのか

くきろう わかってかかしるめ川の多くいろうかくあるかって あれかりとれないしたでうかくろふれるよう きりつぬべきふくとんくえているれやの月と 見ろうわいくうろいけいといれいりときてん くりをおきれてくくながいれないにはんない 月のとうろうからあると らっまいる神の村まつきいくしろはかく の何いちょうのい ふきあるうか 一ちしているがりますいろのからい 百角方八中小 いのないろうろうろのもろは 記るの以外 るかろうしきろ 考り以教を らも ある動 九房门给通光 いかってす 移政太政大化 杨中的方太經 太上天皇 後人 なられているいか 蘇原經衛 それのいかとうかかかん 八條院高食 ありは時 協心大寺九六を おいてる ら次

ものをくう はくりをり見るろうでありすい ないきりへいできれているとはものえりい らくうつの ろからといかかり かくからびらくっているとい 更 短馬であて食之意と の中旬中南十分 いまのはんとういりととれてこれがからまかり 八八十五夜かすってりおえてほうん かんろう 神をうりきるくれているとではたるのう 一手いをあ 以るるというてと多くはくろうん 公はようにいきとはなり - 二座佬横战 ~というこうありいのり めは「きなん 、多数的人 ならての大くるのり くその大人はどろうかい 有我机员 在衛门路通具 行政太政太臣 成点大砂 は眼まる 友传的后 移政太政大臣 夏太在文文像成 有家朝代

るめないなのわらりいとうまではいまっとうなん らんとかいはらをのありいまでなくいとう はっててわらりりととくなってかりるのをのが 思いかられるころのとうべんからかきのなのは りとれる 形又してかのりを今したっちついているのなのまり ゆしいりまってきしってのきつきはるるころとかぞくと ははいろうりんきなふろう 好政太政大臣最后看了一个的多的人 うとうしおしないますいるいろいせかって 二世院方野書八十七十分了 好战太战大民家百看一个令了 そ神 子又百多千分了 百首号等一时 からからからるとなりまりなのあめでき いくかんなかしというとくろうと 7 しろうかっちてかいかっようなのかのと 殿軍门院大楠 移政太政大臣 芝的朝命 支行的行 感原係あかん 在衙门络通光 承蓮は師 污核约遍 刑部以免 家でから

りのさけられかられるだるかいにのまれ 多いわられがある おというねろられろういありかう をなるめできかいろ をきろないかるとぬりいりといるとれたいなろ たらいっていているないとうない ていこくのかてからっとなるいるのまかとは ようくとかかまう 入路前等自太政大作家乃千今 からのまういかっていまれるで 建仁元年三月方今逢不會感人以 る根本とからんなるるなんとそいれるを次 表了百首今今天的 移政太政大臣 湯のうつか とうんとおれ ありは何 院ろうてきあき あれは師 鱼状门院表 候恵は何 年蓮は行 ると 有影的色 在访门各通具 いのるはからう 權中的言公理 ち沙门门大民 そのころは多名と いいまとりをうちを ららか

ちってしましかんないとうもうかりれのいくい らていれといれれたいでいき吹んと梅 なるってくてるのないちかられいろしなのうして けるかきつんとのまりなのできょうといい まわきらいる。まなのわりともあいいれなとう 何といてんかりとはなるというからく 我かて 社をいるなるる にきてゆいかのかはらうるまれるのうと うなどもないとい からかいるととてとしまれておろうりか というとうるでなっちゃくつきのあら 然不知 わからてちかりか過不過をのうと わすあろう今にいきとけつ あう今日 本文的名十五百八方合 少れ春吹みるとつきそり 大谷をうたのなの 家情的に 藤五多時 太上天皇 あ大僧山魚名 移發太政大氏 玄及門歌を 鴨長州 有泉朝花 麻道は師

神のあしわらめまはつろうきっているのかまか 我をいなのいましたくろうけれかってい かもいまるらとものいれかうとろうななも ひせないとなるとかからうないけとけてもくめでのうろうい られてれなくるとうとうとうれなかれ そていわとりくんけっしいがるでとうとう の強つうとしないものというるはなるのである いかろろろくかれのるとうないこうしておかれる いころりはなる ふねえいけのあくてとているるなかり 有着ちのかる かかいかいかいれるるとたかいれる きりのまえて 太上天皇 名のするでではちょう 榜政太政を反奏方 好政太政大氏教石南子今·易矣 つられたのろうゆす 送家初代 多の内教を あ大僧ふ気を 家情的氏 あ大僧山美国 定家的医 自大作まる支後微女 年蓮は門

暖力像やきかくろうと神 ゆうかり対めい神くはってほうしているとですか きていくかくつろといるか かのあるとうててこけらうかりるにまから 自めつれのかるなるとろうしまのれるとう 前を今 おりいくういちくられのあるはてとるちれのは 八のちれようはんていれてきりのほのういち 多年,立 既成力のは 一名のかきっれているかされたいというと 十五百岁数方命了 水安順為十五首子令 水を飲めまける前のうかかる ころのかのはるなりつうのけってい ちいちにするるちてろれるか わ飲果老弟十二 雅经 榜中柳言写领 最大僧公義為 嚴原多家朝尼 見な在まる大人は成文 这家的代 在衙门管頭具 **お大僧公気**回 有不安待的化 七神の岩野は最大 九山中将る衛 わらるはそろれ

我力学であのき えてなれれまれいまるとるはのけるのしい さなりしちいっとまり、ねるかれる神られ つってくれらるとまなかのこれかいろくていか くい我見をなとまたいとはからして のなれるのないまとはとなくのあいられ 1000 するるかいははあるいいまでしたかいん 家了我十百方一人的多外人 るるけぬいっとうしたくしけ そのくなけっきょるなる長め せらぬまれてかける そのかくちりなのろいろうまはう ~はくうつみまかばつありとのれけ のせってくなのはっとうちゃくやくか はしの要する後のでいるのあるなど しらか うまらいる らち 大きうらはますともううかうつわる 老者天皇 私出院沙哥 行中的言係各 **发至元真** 藤原通信的氏 蘇原作成 わ泉なれ

れからほとかい一段りすいなるのとはいろうち 後からまろうりははるいのおんまとうまな きていってんとおりんのうくういまうりかまるねをうから むりえと神像のさくからはいみのちょうか 食というとかったとうというさっくらいなくしるか うまかくなけるととうよれなかったつれてるか きてのちゃうできないくるいんかくれてもするい 何とっかりそりからめかるくろうるってから 大きろ、なるのはうちとは、はあけられめでる 梅けいてくいわりかりあうろろうかられる くううなのできとうても人かかのやかんろうら すいていたの村をはなつわりつろうな事めん くろうかのゆかいるとろうともはなど ちくまくもろれないいれていいあるないいと ろうろくではあっちいはきるかれりいち めろん むらいまれりれの父養いとかろうでう からも とんかいかなるののははあるか 迅重之 极上是則 六原有大民之 うんくてらぬ

何からくれているとうこ こかりはりくはいろうないのうきてと思うからせらかり 大村いなくうつけのけれるとともあいてっかん うらいてれなからるなくそのないよけられるか あるしかろうるるかやきますりょうそろとれられける なるへありそれきてせないとなったのうけはち 我をしっかまてそんできられいてんとからかとかきく いいますらうのであのきつばとねいめれる そのかっているのをかりてくずりってあれんつちから よううのかくていなのみかくとて、これとしていからきながり すり水の手にはいてしたんりっついけられし いいあいかったかとせのすいまのわきなしてくてつられ はならうかのかろうかいわそり 中もるまかっきかれておくうのけっかくてぬれるとる まっちょうかけんいうらきかくしたるいろし とすてしていれていしましたのうじょく一年からきら 中的言家持たりとうと 公次 りのきりはいううとも くれ は気紙 山口女し 分析 急議省 赤建衛门

ちいきがらろうねからるあろうにものひをはまえ けっちくろうの食を教う我るてれるろけず はりかとうかからされるかけらちとをなるがる めろとろくうつようちをけら 多の来のあるからでくるできなりいっとい 春へをのるはちていてくれたしょうころかられん してきなしまるられているのかとれても りねてわりつうろかからしたてけるるであった みずれをあしるれとかしうこうかん 面前午七一四 くわかっままてけるうくとうますくかんとしれい 名かすして 和哥でう合くき不會多人んと 多不知 あれるとあるから 教 そのをみのけるありてからいり 一きのまったかというちもからあるべつ 155 自太在文全後次 んないあるとはなるる 奏後 式る門教は 定家胡作 歐明就豆 自大在文文後成中 友信的人 伊鄉 女清嚴る女豆 麻道は何 够直朝氏

かっちゃくりょろとフィ るいまう古いまてとられくなうなものそをけられる そのほうさしておれてもったはしまくつといからろ そうろれれのそれれのころうとかながいめ ちまならういくていりひときくなるとは ちれているかろうというというというはくのもに いといれてあるというてなるであせられてもできる いずてくないろ いってきてゆうできながらいいくちょれいひしてんとうくくなるなからうはろくいる いるりかかりというくろうというといるから 家はんちをうるとしょうりろうとはる 名成かにうぞくるあてはってかいまくろ 男人ろくろくつきけっろうるいろくかと とうとうまとうちゃしいてんをいくん うちゃんできる 藤原付文 りんろくくうれ 馬り待 こううそんちょうんなのくんといわる そろしまるとからた してかきかろしていかい 自動门院尾漫 机模 智太在文文後敬 武中的多数感母

我多 極りたんなりとくなとくなると我っちてくるほとせれ かいあやらけったらのかりへんちゃしていろとうならす 建まれてえていいとろりか 伊とことでのかうえんかずかっとのかりかいあん ハカイン・ノラングランかはつっかいなをまった 2 そうろうて てもるころないのわといるこけっきいというよ 寺夏女歩るでうり とわられてはると くいからいなからい路 ら次 子名様へる かなくれるおくれるかとう られるるかりるい かいかくまたか 条直補親 いるととろう くうろりとれば思いらる 老者天皇沙子 停物 業平期死 松泉本部 天曆事 李安 小野山町 素性活 係養文 的宣朝任 き変

おいかんとるかと きんとていつ ろんちしせいせん あるのでもなっていくかっくなとうとい たる人ないないとれなることられているとうかいるか 初たのでくろいやうしているとう しかあったからくうなからろのをほしせん まてれてしたかいまするかのとうと りといいるのちょそりなかのろうをはられ のける方なれておりととうようせいからい 年へ又衣とくまったりもろかろりもある 女のかくまからてきてて 奇美好美好到的如人之 帝民女はすいりらけるとはられてするち 出去りといるないとうならせるうなんが 製りとい 立るかろうわりてとなるうくいもれ 5% くぬいろん あん 感免性成 人の済 鸦鱼 強心了 多好净可 兵都心战平殿了 藤原元夫 天應沙哥 て居場す くまりかね うちない

我しいかり をゆるで おしくつけっとうきとうきょんないほん いれてい (方)凑八像 れないくろ らいいらいつはのかり やいせの中 ナぞろのおきて くかせれてきるもれく神がり てるとからませのあるでにうりつまっ かれたちないきかなかい う女は飲まてけまくい 藤衣元真 藤原惟成 泰城管 1とろうさくろのか やちてくるのかろうが 能多数思 のそうろはるか ころ かるず そのでも

ゆうするなといける格のれるのろわりとくこれつ とはやりていたいなくガーまできかけっちのひ もまくくかくのうきかえるいるはろうないろか あればいかなかつからけるからかできる 町古今和歌集巻第十六 ちろいかのむとうから 雅哥 いけれるそのおめれれっくろう るかいろうちゃんをようしろうろんである れれた大にろ大にくなくらきろうろうい 170 人遊前的白本政大臣家人百角号了自己的艺 くておとわて、 うくいとと 多い一 藤原有家和に ふいる春八人は 八ろわくはりといわかけちろは るとうくわくるてきちろう 名野にはいうなくろうかいる日本なろ いのちらううううけの神できるそん 自太和文本美人成成 るといけれる 負信公 苦を補太政去を 大信ふりる 國藝化沙方 一段れたん かいったいん

多るはいかりいっといれのそけらかかふりちてい おのれかからかんかくのまなしんはいとれかうらか すのなりきょうとてきなしているからいかい けのおよいがまくいくわってしてくるのうからい されるいのでするうれるでもったいるののは なきろとすてなくをなけの食物の行ける東三住院やあるかりのはないないないない きいちへきいい我るわりつのからるが するころのおおうれずていてもちもいかり みつれて人の家らてたちっちれている 格をかせるけっかとく ゆりたいかりきとははた大ちの家の 题 なれんと 上まりてしなっていいようをついれ 格のれとなら 世的ろいの格でいていたらる 正長はよういめはおくてはきとうとんる し先在でれてい年又ろのかくゆ その院門子 東三路人通常持段安全 大貳三後 传為傷意父 原多名的民 為熟院亦可 國歌院河奇

多いとうかくうるというなんとてをうけ 多はあくいまいかったのとゆういるはとなるとない ちていなりいかってくだろうのは事にあいまわりかか なりあるうろうれるころうてもんな そうそのまうううてはっていますから てかっちかきていると何のたろうと とくすていれているとうしてもなんとうろ かくている こきりかてんろううちは使去寺たをもぞ あばんてそうちょうていたから から 建久六年東大寺 供表了约年八四县移寺 うは一松らせてはようち見んなれる ろうすかとおりいかく あるこれぞくくれる 大日のれたくゆくろうないうかい 出情到て名 安めしらかのころいかできまとろのなる ハいを構成かりるはとくないしていまる くればあり、日本は多はらいけっ くぬくはくかあるーー 惟經 ラクス 二條例白四方 藤原定家公元 九大将柳名 しんないん 多いてころかん

格だられりそれなくやはなくそろせてらえ 構たわてアコーううらよちられけらてそう かいまうとうとれてりつかようののまいるとかっ はくや又月りのかところうべれのきとしていていてい かそれちょういからされてれておるのそのよう いれてきりきてきのちょかってとりいれりい えましてたまくりからったの風いるるとろしく 三座因大行之给名言馬羽院的哥 多段あっておりっすううないしん 主風数だとは~は 京杨 前太政を家る白門に幸~~~ 野不知 ちょん 数通力かくりぬるちぬきろれの白八八家 てみの日をろうしなりかりかり まれてみつけたこれはうりろはくですくり へんといういんといるらてきる は珍米に四時ずて放的成務などろ いとがのこしいううとううきろい 藤原言艺 好方 的别如都 原师先 大納言思教 **为到言经信** 大動言忠家

まつかとはんれいちまれたころうちま あられる何あとうとうとうとうはられて えてるいるなからはあるかりためるのろうなな そんしれこうせんそのりんけっこうろうれてあると サートにいのかんようれるとうけいけんいいかん かとろけんろうろんいろうはかならといちいからる ますとなってからてもくれれがとってくろうでん 好けらきりとかっていかったのけらいっち 白傷のこりととこのおいれるとしてもころう られるかいろんなとるのやしろうろう せいろうれては一百百つうしんりいれつ 福め付かたつらのもくちろう時ちからい 题 東るできなるはってられったけるいけっ そろうろまなりといけらしるう をお食しわりてるくとけらしるう 題不知 月最石首八年日 うくとく こしまろかか 八道的写的大政大化家午食 後種かん **お大僧ご養養** 見太在まま支後成 加灰方湯門 安は一時 る的は何

唐衣をかはるからうくねって そのまいらは いまがしましていたいれかられていたりとからの そのありおされてない春雨とはていなけるとうないかりおされてないます。 それがきまりん のすいわっていまたく数なのほれるといろくりか かるていれているうなななのからつかくろのち おうかなうえそそろれれのでもうまへ大り のではくない、もまてとはどろうならくというられ ける 少以八八八人後一月一日上東门院太皇太在文 けんり かんちゃくはくといれるあられていれ 题 立首方第一時 かともなきて徐くないい 東野院行り给く は海の方的に馬の 石首十ち一時 ちんきしゅうとうういめのそのなり トラいとかるこのいいまましてするとく かくくろうないのかんか 上東门花 好大僧ふ気会 は成するるおろろのを 國歌院市等 **お大納言と食** 夢了朝に は京幸湯

まるべしょうろうとうできっていましたとろののか がきるのからへういしていのろういしもというか いいまうとうなどなくある内部とれいかようととき人様をなんかろうこうできるい りまうりころりるまたまこうてくれつえている ちえるれっとうかろをろうというとう りいけっとはありのの月ましていいくれ うとならりとといういとろういとうだが 月余かりとそ教教へはうい み月ありもとれて月かくはされて そのたさけらどう後いろものなをとくよとい 女はいりゆすりろう はくてとろくにな 三峰信的内立月子昌神八石のからかる 房へけいつりましたくて たぼ门端家面中からんろはまかけるり をはか持ついういろうな考るいけるる けいとうと題ってるけるりまつきては いくって林の花のえとかとくくへからい (A) ていていいいらてはきる暖を投入人 三條院女卷人友班 常古新 九衙门卷家面 かるのれ

村やくうなやられてやすくちいはからいます ないうでまつきなんてきしなしている 之りあいとつわられるとあるようからまているか くいてきなとものうかなくさんからしる大きていの るのもろかもろりなるつるいはろうは そくないれるあろうくれのかとなるとろ りくしかとういなうらかねろくつら 業年的を安まびりてんろうか きさいのまりゆるなくすうあるい てるのとうあわらくなりあるかとなんか 述像百百子中心的多と うてるかりからていない りめてはるれの多なら えいかくいうき恵る女」 教者之一くではらいっとうかなく 福自なをきるといく春言とらついろはなる 後次へとれるみをのろうてきかえ 和泉本部 花山院海寺 纪有常 自大在文大大俊成 赤海馬門 一つ月のえがら

ないかっくしわ しいかいろうちゃへ りとおとはこれかとしてもいえけられてかかり はまいろれくとしてないおれていれかりとういろ うれぞうちくせんりとうともり月のたくころが 川おからのくとけてくいからしくはせば数やうった おいくとついれなるかいきろい はいてくてるとうけんとれったのいくうはきず 三井寺るゆうてりろきくうひとを 题 らまりいるような人からていると ところまとりまうけか到る紀程と きなくろうゆうん おいてるおはそろう アラんなとうこうてはいかかん 冬後いえりかうけることくのうちゅう ちいけっぱりっていせばるしずりきら 小切いをけっきるとゆうして からいろかのって七月すのろり 存勢太楠 泰議云光 藤原る時 三峰俊乃可 はおお飲 刑部以範盖 しるのの月

まってんでいくるのなけられなれのれの月 藤原長納 からしろしまれまりりとよのあってか りょいよとうかしろいけいてきしてものけかろうせん て神えつからんをいいるそれ とうないまれるのりなのこれを引き おいくはくしものすいとてしてくてものの月 永らえ年後はりくかて夫しょうりは 和哥多多的工月的七八八人 るいるほうていてりばんくうからろい 月前生場とろうなる 石商子书一秋子 二峰院横的 ラとて ろらろ 大はのうろういちそうしんでいろかない 京西でるるるというろうか ういまかなしてきないろうとうと 八月十五夜かするとものことろける きかばうろれの月はとくせる神るをは 小なっているなななととうを明かり 1 Sh た近つける僧 藤原威方的元 宣秋門代子後 藏死 經過朝代 武和 一 氧元 皇太在文文後放

がなり いろくばかくとおのろのろしていてしていかの月 はぬしてかしけっまれていちまこいかろうと 月足 のあけられたりちつところうかからか いりいろうやしくいたろりせるるのまでと あるくろせとりつなきころもりとお もうっあのうからいりつうからるの 杨政太的太に右持ちゆ一时月十五年前一面 けいつけているやしろうろれてよう せんろうか しいいりかかってたのでくるいなる くついろうことはそういりませき 納宣初でありと八国すつちいちくとろろ をはずくおりるはいい月のとうではて りかりっともろれわいろういろうくの 立十 あうちょいらを月からうかと 石前十七時 かけられたいてゆうちいけっちょうと 月のいくないろろのほいろくろう ぬかれて 移政太政太民 扔短 あ大僧ふ美多 をう 蘇原素法 増奏は前 区通河 160

かの月っちってからいれるくないにあるませ りはそううりけっかかしけいかろうちいろ なしていかううちょうけるかし 一山家人ではきでいる人はいるないの からのなべなのりっれないさんできのきるだらり おとして ないまでするりかくさくうかいくくろせのりはんと とかりくとしていれるころの月のまれてい いないいのとたろのちからからちくけられる 了かりゆとり 松午的八哥食品的晚月一年了一日 うろうりをいれたりすまりくりしちくちょん れのうれるなけいころってよばのとらん あって月に水とろうかくうたんろう るろろちろ ング 1500 うるろれの生くろうしょうると しなってんかんかいろう たら後沙哥 藤系系的 こんとう 面的は阿 路長明 智太在文艺度成 るいれからばるて 大纳言经传 好鄉太梅 和泉本都

まこちのもとうることからで月まあろう ゆきいう教的の私とからいるはかりつうあかり といういうかせんいくろうむなかっくれからり わきらろ 大力をいしているできてきますいろうかか 八つまっていくそうち していのないきつ てきいういかつ いもけるははいるのかはちく りはあしろうとかけらくれのでを行る 長月かりいのというでしてきるです 石箭马等 子をテケー対 あ立西南南 かそれの月なん の見て神をなりれるのなからいろう 神ち はもくまとしまいろうればははる りつからいはれていかっているとうろ 16 くりのいかばずてろうないか やめばそろ我すかっせい いけるうきるしまいま 二峰尾獨心 すりるかりいろう 源克行 りゃくろう 藤原院信朝行 惟の教え 麻雞坊門 武大僧公気通 放五通短 人道親了之代 ちいろか言 一つのい

かいついりときいとからいとれがりょうろのの月 きとけっけるかくかるまけったはるといい るってしばやしいけんさいないのくかろいのそが 京京 のかかりちょうとしくまいけられのか んとありいれるてあるといるのの月 麦日村下金曜月八ろうかと あいちてはりかくからしゅうこうろ 遍照する人人はなる そういりつうかいる湯まれるないん すっとしるわりいとりてのであるか 路 ち月と とうくわいなかいろはおいらしてて ラグラコント ゆるまいまれいりる のなくろりいまうえているころいしい らそけんいはくるいたく といわらている ろんしていまいるとはめてくろてからい りわっかを定るからろういくろうい しゆうときとれて八月の歌のき 干養敬むた 年延は印 は格约處 を大将各種 存政大政を なり親な 藤原保養的人

さらるまてアンとないれるかしまっておあって もおくろれのをことをかとう ちょうちてるやねんりるほうりれける 和はく、場ていろというではくろうないろ であろうらえたしへ 金してるといるとう ゆれているからくの神でしますかられて神である やすけずくりつかっついとういろのないない かといれのはなのつてもちちななのは いるようれないないまするのなる 立十首方くしょうせんちっかっという 明るか 十五百五十分 色がままってゆ 聘 他をとうつくなおのことしたる 和方面の千合る海色月とけてとは 十いかけわらては百角方りこと 月日かくられ、南大的言と居 けつるをみとしてのらか 一ゆりい月八彩をときる 具舰 面行方的 神祇伯野什 お大僧公気か 写太在文太文後成 藤あ大街 後恵は河 してはをあのいる くいなれるとなる

名の気のうからくるないなられれたのずのち 白をなすいちしいる飲むのかりなれまってんさ からちやねようられれのおりとなるとはあ 山里をあいったなまのいかなくれいれてるいか であいまてしかしちれておくからしる をれているのろのろうしあればいるのです さるめれのあっとうころけつとれるのないか うろうかのけいてきるのはなんとう 寺風樓都ところ 3 は成すへ通る大政大人があれたわれてろうして とれとはからればかいねっちょあたるで れりいりいほどまははることもうとそう 頼はわにおはまりてつっと作べている ういろん 秋八書とりてもいろうとぬくこんにちろ 小者以了一多人 前中的言語房 艺家都 守足は親な 本は一時 曾秘松忠 智太在文文後成 た衛门後通え 大卷鄉行京 は成者の話れないるを 张都 支付

のいんないくれていかっていていくろうなとなる れてちておうでいることりはと着ろるはいかり りないけのれがないないたしてらくなりる あっていかは不しあのかいまんでしても るなってかきいかでけられ まけんととなるからいまとしまるるのか 長月からかえのお教えもうい らは殿のをよう、谷であとういちうは 納る歌長、済まらはは水寺た大氏 いしているからいろれる え梅りしてもんろいるのところらいは ゆきてはらて でうり 何られいおける 百角千百四 はあか 南陽でえるにでるます、インドっちょうち かれのまくつう いのかっていきてきるらう 小はそれがまするないのき 1 27 くちてあるてのはた でありためてい 於中的言題長 未准修门 源順 冷泉院沙方 藤原友でかん ち沙門内なん つうからそろうか かりませんとう かるる

弱の食内な うであるるで ふきろりり 作名のあ おろると せ話てもかる 文の年にいるとき ゆうらきなかりろう 然見大師 お大的言写行 甲太在文文後成 そんかくろ おあるう 朱雀院沙哥 えのおをきばないろ そうろうか

独的あるかとっていてこ あっつゆのそうとうりんちょきまのかんとうかい となのいっとなったのへそをえつやえるあい それをのはくけるの考し我というかゆのこくから そかのちろう人後もある 年ゆきいろしてゆうれる りほろぼわえかうり 町古今 松歌集巻第十七 りいるかかつ りなのからなってい 朱馬也年九月紀何風行幸時 仍长了 かりのちとうたるまん 考らかのするろうてょうい でしまといるのうりまりれてきて とるけせりているればらった 歌的で暖り というけるがくていいとうな いたまるねしとしてる人な 忠奉 5 權中的言這種 恵変ける 母うと う人ろ おわで字合 は他太守たたん 在京業平朝日 行為智力 るめのかっちりんかさ

いては風多いしはらいはのるとゆいししてまいろ 大門八月次こりへへてくちょうをつなる個は大門八月次に時屏風す 云生息見 そればるちまからいちいるではあるかれらみ 人きられるねの風をいねいて めんころろうしょうし 水へんのといろいれるいてよういいける南京ねる わすの何とれの書うではいちょうちゃのけれ ちれとはゆきくとはるようりのちのりんとく わするのう食の風路社内とよる人 五十七ラーんてくて よろ 大気三倍里るからくもうはってつちて の何まそへほんできれのうちなんとうとうしょういくうきてんている機あみる ふらみしているようみ塩をかるれる 十五百萬子食 心三传表的 ゆるの何ところ 後機朝氏 ひとちのあるいろてくろうちて大きれ 倫地のなべ 北カカラないか、年連は行 藤原秀院 感原存长 あるではいてなかれ 前大僧正慈急 は冷泉である ますけられていりか

たりないたのうちょうとうからうかいくろがいす 付きのおいろしてもかんてきるとせばれる一本 からいるいゆうとうとうちゃろれぞうか 終あいったい 何れていませてるい何なゆろう するなりるとうといれていまいまけろうい 教長でんちきりんではりん 小鱼 できてしたらきる 夢年初に ろりのけっちょねーかられるそろくさりか 万首テくてすつら ゆきなとろうからんか かついろくんけらり 伊野とゆうろんはしょう 大作えてりてりろる百食ラウサー りまるいるい いそかけしくはからつらればのほれま なるちゅうとそくるぬりぬりる しいとがあるかりつかと見るの ちろうか 的海色へろ 大武三ろ 面的は印 島太和京大大後成 家門かん 越去 视部成体 **お大僧公文を** あり はほ Jos Just

きないうちょうかいまいとくのへやかっちち ですからいねしかれいけんというこうできのゆると 山里へ中かうまっちょうしんといわずのはかろたのた たりてくていないていていかりとなっける あくられらけのおくろくみくけつようなのかれんけっと めのそれのかしてもられてうちょれのきん まりてきなりかってるとうといいなっていからう むらやくころともからばれてうからくていく いていれているもろうを野人かくけのる りますりついらてくれつかりましてくうねのない かは作けんとそれ大的を仰め それらんのうなりはきよれのもてつていけ 方将高之換りるほうてろうかつ 守是信职又五十百年上了也的了 子看子なー四 古大僧正意名 百角千ちり 国旅がひばらうう 五百多千今 右衙門各通具 るいとうか 与寄 有家的是 年代は門 表階的化 藤京家衛羽氏 至承元方 面行法師 互秋门佬丹级

せるとそしないとういうこれいきまくれのは 自然のかったながらいるのないもろうの 大公ろそーはのかっちいているいろうろ かられないろうかくかとかてつちめるせんとくまるって そうかていてまれいしけまかかろういるというか わきてていいいつれるかるく我なしないか くらしてんいっとかしますてるなとうしとのうい とういところいけかれてありらくくかいからす かりいてまけまときいけてるはのはのない 1 的重的人大京府ようであるりる 20 ゆうからすからろいしていればるあめら 山家送年~何了了了人的人 いくろうりもちゃくない 行在方金り うちょういくいのたととってくならっと もからはまれてかり きいゆくまけるとめ 人 オーとしるとうつのちょからくのね 惠云沙 北芝 面约修师 的重かん 太上天守 年蓮は時 シタ

なっちくかはまったとのかったとてはまれない はいとうとうろうはからとこてきれらくのうちくから さかりせてなりょくすけるじますすうちなちちゃと かられてくるとうというれるゆうとというくめを わからはきいっかってきとんないれんちゃり いていているとかいわらいしたほうくろいろ からぬとうち てまれらると言のおうろうとれれるか いてないけつくろからいてあるいとれている そのするとお風とンろすび 山家村一八个人 智太成文交後成 石荒市等一四 山寺はろろろ 近南は時 ひけのはってまなる 建放射に ないるいろとからいていまれれてもは が将井を大きりとううしかっている は白川花物をなるかりもろうこけいろう はちきいとんちょうくのちってきてき とていそきはんで 過食は に神ちるをある 有家於 二峰院横沿 大将井匠 か泉水乳 殿富门泥太楠

はおかいまめゆうちんとうくるあくろうりりのす スパーういきもくすとんなるの場らろうら その行うなとくとく構改太政大に 水上のうにもつとてきいろとはろうかりなの 我せんでうちゃっとらってんないかとうとうころ そのゆうやそうちいのかうあるいでは後のなるで ウイノハガラハノーなるが、そうなせらめてろられ にれてからろめばをはいのそろうと歌るか りとそくせらけつとうかいっといるけいと 終事的ろう そのうり大ねるかきて欲するろろうち 好行院的时后看子でもうろう しわりいまはることはむとなって たたでしかてありるもか あれる大政大に布りのかんとはらてはも 布八月的ふあらてけ的言的年 蔵勝る天後でるる布门のかるう うりらい を後後看寄る政を 有象的人 東三條方品核學於食 實方明色 二條例白肉大臣 国勘院沙奇

松りねしましていらぬというませつりててれる路 佐いられたかはくめといくろうれらぬの月はらで むましいようかってかからせてんのんけられた うしは、ころうせとおりしととうしまたう ころかつこんかくいろう ふかくかくかくなくない れなのよう 小るとしてなりかる 天應海特屏的了了 石有すちりろうしなかってかい ありは何百角きとうちくようせんろうか かいきろけんの選をかってりはろいける ろいるわしろ とってゆうろとはおりりでうと がとめくろくほりしんろんと ていか南代わせてらまのまつちている 3 してれの多くとうるいかと言ういか ~又はっせてあの食れずくいきょう とからろ なる内裂し あり おけい門 前中的言过居 お大僧の芸多 友情的に 太大傷心意風 いいかんなっては (3) いけるかれた 有してん 上るまる

格のころのあるやとより暖かられるはかって 焼そってやとのかと思うれんのかうというと 上里すらいからのしくろうしていましてい かやいありとこい、成とるのででるゆうすかい てれていていというからていまるのうかで かのえからしりしいととれとありしまわかい 了五人人の国という人行かれていたせいけんに りわりなりれしくならしてほうしてまれかって 生像百看ラーえんりりかり あってまれいてかるたろうないろうちょう 後息は何ずゆうてはとしろけり 猪白川花とれを給ては百百分 山家すりところんんそろり たなけの倒むるできませいころいうき 五十九十七日 附经 てぬるれい 何かして多くなくなんろうにはらっくい まずあてゆうてんろうようのゆ なる内部は **お大僧ふ玄あ** 質民重保 小侍受 自太在文文後成 面日は何

行为 のとれるないできましるなときのあるため 多かくつ里のあれておりきかんとうくとしかったせ るけるかとくひょういてけいひりともいろうん 山ろうりまりそくそろかのけっしょうそうまのな物 はてつりんかりかくなるからまくるところか ちゃくておとんていれてもなるあるりつとそろ ゆるいろんっととうなって月いのとりろのある ゆうてはていてんれているいのなり、ちのとるなべる そいとてきくいしいたるりとろるゆうれのちられ アフをのいない年かてよれの多はってもです 我をいむけっちゃちったいかっと 西院出てくてうわいてするいれなるちり 题 ろからかといういろせるりんら 百有干溪的了了 播放太政大化 三中寺楼人格何的少的村子中的 くかりいゆうてきかかのいます んちろう とないそん 納同法师 秀之 **武大僧ふゑ園** ありは門 祝却成什 ありは師 大僧公然園

わさろうですのうりといるいろう ちゃまからかいかしてくないうさせばずにかかくろう 前古今和歌集卷第十八十 秋のというろくころれからてらていってれてくれなくておく までして他のかとくです大多のとうわっちんと であるいしろえんはつとろりくうじのか とかいでしてをきけらまりるのをはい いいりきつくうれまつけいかなかれる かろんとかいしてほりはあしとぬられる 守受は親立不肯子、今也怕少好 白飛 めてかりもうでりことれりくれらいものと これへいりてきれるあるなると かいるい さってしからおきてねてとしてくてかず 恵季は仰 定家的人 赤海湯 養膽太政大人 天新天皇沙子 くいける元

うれるの風をかりとやけろうないろられならんなら ゆでくるはっきるからはないるのありやろうと とつおといろうかというかははもゆるまであったとい をいのかいとうたきからいちなる ぬかいてかろ水かをすてまれるころいりをたり りはついらせつはゆきょうとろわれるる かんなとうつりなしていいっとう りほうかかったっきろけのごりちんいというから でかとれてつわらいきちかってもったから つかいいとろうすりとうころうないはあせ ひいれかられておきてからあるしくてきぬ されないりてゆすりを我ろかとのまたして 分五百五百十合 杨政太政太后 くれ お中的言道房 讀人不知 指域上人

たろう人のむけらしょうちろしいまるとかからし るろから内のおのかったとうなると かとのらくろけの水からのせるとうといれるから うじるのるいちいつらぬやっとろうしいまってん 門のなるからくはあってかりなけるか せんえのましまきいかくちょくつきれかれ ちずさのなというまとしためろん おしいるてそてもけいまん ぬれとしょいくしんだける 上まりにかまのらこう私のそうち なか家ので気やしててきてとうと のまろいいっていとうていろうかとうち するいるからろいる可珍泉院のまこ うりんのきてきろろろてふるくねろ したのはいうちとていのないろうろろくろ かかりれとまろうへふけったくけってん をすいらの我をうり 終宣かん 桃把曾太在文 は水香人達不好政会管 納国は所 冷果没太智太在玄 ともつろう

多か むりをのってそろからのく八水いるなり のゆうとといってくてんないかり かのかいとうたんかろうちるようるほと か将事を検りのかりてからから 所成の徐くしるかっとのうしからてもられるいとしのぼくあれていい、教皇のからは するにもりのはんとしもかけんち かのしけてはねるときれているけ 小饭 くるのなりとうころうかはよくちろうない ろときを終くたろうもう なりろくしいというとある数るなり かいうとしてんろうか 小店の私りなられていてれるつでいるといろ そうばっきいてゆうてきてるしたちの はろしきていかというとうなったるから ろ業手的にからのとそろうゆうらん あれてい、我食の小いら 一條花的文 上東門尾 和泉玄部 北是 惟言記し 天曆沙可 伊黎

はするゆきなくれつつうからいからはまからっちい 自然なるそうれしておのうにはいれいわらうの の七梅まれのはしわらくのかとうますりくろうと のなるてきのはなかったなってあるが ゆっくろんのつまいしてきるうしい 二條度書花樹花ありまってのりたる なようりとめてうたんちろ 村付的号通後後接成るといわうなろ 教務できるをはるる大きっきるか じりとないいる大人を経行している ちきろうかとはろう 上東门院高陽院都 家度はいう載っまくなりまうけって のあるりはとうないたはそれできるる うるの日女房のりたってきる けるのは かってくていくくなさとったいあくる 後するとうゆくとをちてとうかとした れとてきてるとれしせれかとでい こというしかとうてもろれいてもってて 藤あらら 倭白何花沙奇 定文教的代 级朱雀院沙奇 したくしらい りまっきついい事代

わくかかかんとあうる相ばをいへるいかれるいない れせかるせっとせいりあめいりのきつつようなとい されていていかられていたはとはいるとはで うりさいけんれているもまるのつけばれかられ 建まっかっないというとともいれていあったりち くりとあっちせんをるめいなるそんないろう の変が中とかくくるなきいるかくょういこうううが するとゆういときつかしてまかい ちかんれるてあてれていちょう かくころののはいかないからからいろうかん 此次八七滴らり 藤原西高かに かくそてもつうける里りょうけると あっていりいんがいと朝え大ねクシーてよ りおて新り るは年周りかてな上いったまてるぬうきる なとらゆきしてゆて又かり 秋のううけんくいまうかころうていまれくと いあうしますいけり大梅 きかとそて 云はお見 局仿内侍 た大心羽え 大納方種係 赤溪北门 九大将 妖暗

あのかいまたいれていきあるでいるなる 中かいとうゆうあのうけるからをなかあかい 食られているるとうのことましくのかとそろ すっこのくせばいろういとしるかちまかと思え それられるすりこ うくからい一治とうなど人教がとおくないるいか んれと思いなるのからりかきろうときとは きいからいんとはきかきたりためろ のというしるゆうてきてんろん 至去海可少於人内面白馬花會たり了事 一百千节 对 苏大僧的意志 我ものとうけんとうころうちょうろうから らいわるびころうきと検非送使の をあのかとうとうけるいろうようゆうゆかっち 16/ いかられずちゃらるだろりるいして いっとうてしている ころとというつる いのかいはつしっていいると、対い 漬人るか 大僧云约子 如泉水熟 传承元柳 大僧ふりる 小馬拿物 九二

思いれてきてしているのかりわりのなかっと かいとく呼られているていちかの しまいをついかしわとりてもくれんでいまりの おうううんのこくいまとてていてきたちれたかのかの ねからきていからかいうかられるろうすう 力のうとないうかいっせいらいかっとなるのか 年月でころはあるとうないりのころかれるとい 付すとかりてかとくとうらくわうられるゆうま うついきろりまやかそうだくけるいろはならのを けくていんからうしいうういちできりともいれることで りってくしかうあかられたからいちりていた そしかは一本わらせいもうるというとうしていれい 人かきとかとせいることて、はくるのとし きいかてうにもいるうりんろかいかとく をりり 和下面して述像のかの くくろうろいたちとかかい 守見は親も立十首きくしては少く 上くのうろとうい 少考人内函 最大傷ご愛 急 **お大僧ふまま** ありは門 國防內将 年蓮活門 一子小子公安寺

かけてのれかはそのかる事とえてそれるとやよう からうくあいらることていからりしてきてい ラヤーカイン でちおきておきないないのも そのできらりとれるてもろうやるあったい えているかといけともの行のかくとうていかまりかと かいとをぬくりしつとからやくなどしたった わていゆかからつばわいまうへうを我をいうろうでも かろくせていいかをいたうかようてらをかりり 我かっつつうないとうからてられてはくている れでられれまではいまいりしころくろうとゆかそ うならつつのいれてからまっきとうしいないれば でしているとうろうとつといてうくうなから 題不知 る立百事一个人 搭政太政大長 述像のなりたられ 立するうりたらろいはくろう 在衙一後通與 友修初作 芝家的人 批约 守党は教 罗太征京大文後成女 權中的言為京 九山中将云側

いみので かいわりふめらせくちでのあびら かいての多ないころびなるしてくていいかれ くいわきろう 月日公一日瀬八八五後ある神神 というかかっているとかでいる 孙 やていれるくゆりたりもついってくら 自か、きょういけてねしろのましらい 人道前周日家石青千より七份いいる おくてやしいませてとあくなからいり 見的多方面前子と你家長、時人又行 あったくしょうけるねろれ うついるよういろいろしているとうないか なできろう 分命 からのせるしかのとなった あかまり 質於意保 低师艺 蘇系行的 是本田長远 面行活场 鸭長明 太信都意介 刑外で移じ うるかてるまるのまた 迎表量 をとく えいましいれて とてき

おいまいしていくからっとわせるととりんちいる りのからうときつくくというなつきはいうごせん をすくかしとりがないこうようとなったできているよう ろうりれいてきけいるてるかっきらりてというです くてきくていくときいくはいてるくない いるといろうるいかしまうしろうつのかいたろうれ からしているかかりくるいちくそれよくく一般ないり 過ぎのあるからい、教力のかきっちいはしるた 生てなとろうりりのあのうでかしせん 有世としていれかかってきてうりからとくていりん していまってもくちののですもののはいくんて 五十七年十十二 ある僧の意思からてふるこうとれました ありは何とすりかていているとと お僧か全真の回ろういんろうんけい ずのうねからいるいある かりかかってはとしろうでする スープートであってもいろなる おのまけ続りってれてく 果仁朝し 最大僧与玄為 權中的言為實 包私門院 **あた大将頼**羽

松かって かでかっているというというとけつはくりつきも そのいたのひりれようられてきてけることないかも りきかりというているうまちませる 衣干人山井八大了到了~ えいくろうしまっている世中小ゆうけるしのもとうさん なっておいくなりますいかしてきんしたくない からおのおうちでいくしいっかしからから これはからからしてきないしからまかり 春日村十分大風といま は時季まくってきちかるんりんなと 四倍一人的外日行行 南の多かたのとくかけらりととてもやは は冷果だけん大賞書いいものとう るのとかくろくいいろうろう いわてきするとうけても らん おはそのうんへきをきり 後れかん 代重上人 自太在民文美後成 随信的色 宣秋門院升後 實方羽日 七月級るかる 加灰九倍门 行行

味ているのかでをいうてきてくかしまくいないか うてねるためくはいからとうになりてもつない 成力 言われりてはくてきかくあいの場のでとれ メをうちのろしまとかいからちしこからいっとる 竹のままでしているののかいれいな 本板のはてつらてくるいとうましのうけらいの ちょうてれかいまいいろう れか来のゆくかきるり ころうなまついろうとうろくぬいなはん ろいうかるを長からかっまれかときんだっ 絕面之 述據有看干人多時的至 そつうとでくてス暦ラテ 暖りいとよりり 3/ しおりでといくべいのうろうにあられて 秋のをようことところころとと 有有方か こていくのんでくわらなめれるのこれの 5/2 しとないそう ろなんのとく した人のくかてきるるかと かりのとけくのうろうしき 去る内敦し 智太征文大支後成 り果む勢 文内と 家便院了 智太和文大文後成 小野小町 中粉で具年歌

そろいんとあてのかれてるはなりつちまな 松株へもいとうくとあるいませているするからん ふかいころうろうれかなかいるべろ つねり りんのいろ 次せいれとえぬかのかれっととのころっ するとおいますられのがはきずれつからかっ うなときいろういろいめよかなしな 題るか 题 石看一人人的多人了像看 建むくうとうとなる人はらして めろり 火きるくしのでけっかいるとうとき 述像石首子~足俗了 石有字书 るとなっていく いっていらいろとのとはみ うりるあり命はってかるのはから Ĺ そうからやうからくとういろいり からうというとうころべんの かんろうまなるの ろうつけてん 和果去勒 西房的大大人 僧公庭作 **大僧运行者** 赤住街门 後種粉石 智太年天大大後成 ~ からり 力を

いっとなりいかとせのだめかれるとらると いほれておあのはっていかろしゃろうか うけろうくといきのそのまなとなってりんとうくとのか 竹するとゆうなかられいりもしとくせいいか てふすいとういいとうとうくるといふせん せつというろうかられてるをいてき ないいあめりてきるうちであってあってき かりなられてはかけってかからかまれてしていませんと ちょうというなかくているとのとってきくうん はいていてくのかろくかっちょうからうりとはらっては いくとうなりちのとけったうりかでいたか かくかんとないままべくろくをくううちょ しいかしててやるかはすくかくのからい 教為就はいうときてける くろいきくろう がらしてしんんかん 欲申ねろれりたちるることからて同り 和泉かつうりいいしょうくはかっち やういろういるくんろくるをを 中的時代のすりとて及るがえられ しらせ 私大僧の意園 の大阪文大支候成 的泉玄勢 八通常国白太政大民 大傷山的雪

ねからあいまとゆうか そいのかのかう りって作りまない ちいをいき うきをはけてらてかなしろうりろうくなか そのとわってといきはよびできるはんなっちんん まるかいいねのろうりでするてもないしらくいねという つくつきろとい ありしていておきかくかくてうさせてか なからりつ てスパーろであるとうとみりたっときき 寺道は歌ひ些十首寺をぬせるからいる ういんれついりりんでれるいすめてきる 石有千七 きしらか 降るる子は古ちろ山田は門 はくかやかとかてかっていやとく思うりろか しらち しあっていかくかりとかいっているだ かくいろけてきりれないわりてかん うっとうとまるのないをからい 力を まちゃとかくているかん うちかいとういんはならり しょてしくててきる 麻原は何かん 俊柳のん **前太僧三意多** 西約は門 源門先 麻連は何 は指約遍 八座院多食

をものせていりかしいのとういとするかくいるいまい 大川るかいくわっちはるというちもあのかれる せててくれのなしかるあのうくれらっそうなか はつ国のかんなくちんとうきるのかんない めずとおいてくるいかしまってきあつりも りまいったいきくてかんちとやいうかい いってしくへんないとうしてるとろう 年ぎくことくかて 百看子」のかゆった 多京世花る石筒号とようろと書き 移作園コヤーてけのるのとうい しめるかけらておのときのなとれるだ す我無えているりいなかっとくてのすと そころんとしてはろしあり里する村ち 三倍水としてからつきるうはすない 何ずしかし込むといろうとうのもなり いかいらくというとうなってるる 石首千日 くがわしるがいきしま 一別るはは 15/ 智太和文大文俊成 中務~具平部 する内釈し ありは門 於山院内方

そうられかるり状とおかりまりてきるから 前古今和钦集老第十八 なけかれんでいるあっちいとなる やいしてきいまてきいかのかりまりまと そうわくとちるゆうれるつうてるはとう りすいるいしょうとれているいろうろう てるりにはないとれるとれるとうからいころういりをおすなれかろうろかでゆう 神松行 は予度とこれのそのりぬといまれる いうい無移のの南国者にくなしちぬろ時 とける楽芸はなれてはきろうのろうか はら、待ちつんのゆいなっているり ゆびもんのえていついろういろいろうんとも ころういわっくなるとうてくかいとう それかそのとのゆれるときちょうとん そうてわらいなりまってもしるいれている 体勢功法と付金といすのとなくれからし てかてすつりをろいむてとからいつ 行台沙子とぞ 珍くそろちり 八年のないてくていってきていのある くろうなうなろうなからいいろうち

おいまりまりまたてつろういのでしょくとなった そうはくむしりれんとしまいかくらくはれいしゆうからく 後てれたていれれかからううちれている そいなしていろとうそくときらてのとうな りょうないとれているようくのながある はうくらはのうかしけらくととうかのか い方は見るらんの多段(三年ゆうて 核田北 はすいみかろうろうんろくろりのころん ひとれたことであるという 延長六年日幸記竟京は17日年野余彦を 石場水ですとどう それでなりょうていろへつるしゃてろしいろ 好飲治年之 そくらうちてんいろしん っしておいろうちんはあろうある通衣 伏しりりにもつることえるとう うというこういうきして致ている とこうゆういん言とことりいうしかん きてはしまいんとおいててかっとうころ よそても了给了了时花室一的了的家 いうり接他天皇の四村和弘信礼と守休良 行いろうないかかいかるよれるい 纪佛皇 ろい午古

れるやといとういのでのこのありまれてんとうか なくありましたりの神場の名をいくのとうくきけん 久里八わりけいまとりとうけいろうりしえをとれたりと えくのもわっちいいといってのはからいった からるればいてすぎはてくのもはてんりれ 神れヤンとけいとなるのとうかはまろう ありているいかいろうからきょゆくてきてなか いくろわりなるかいれて大体をふっまいかっ れるやとうとくろういくしてきてもやとうい しかとぬのかしていっていっとのはらしていいって らしきくつくうろう む依此 は時条とうち がおおのから~いるから ろわるらちろう 動はして大神多とゆて 神楽さんのちまる 大神文十十日 ろは御物はとなれえるゆくてくろの おいとかからていたんろん てしためろい いりいろいか文八女房は中りり送り 太上之皇 三統理平 春文大更不然 ゆうけてくなしろうか 62 藤原宝家柳凡 杨政太政大民 5

まり 神るられるうからいてそのかとはてとろう れるやはなる神をていつとうないけれるとうか ではやきてはまはったしめかろうときもわ 神名や五十段八八八多村村る世よろとそそり られるいけれるなりまちりまとうろりものお うったるわりがなるいとうりるのないまでは らろうててんとのはきなんてもんのかの らそろれるとうとうるあくろうちゅのかかる 川すってきるなれのあるころを移のおの名 香権文のなどしたらん 神松子とてりためられ けぬのりまといろううりってりとそ おびめゆというん 立十七方方 八通 新国白家百首亦一人的多了 ス建つ初はってくらんきうりらしのひする てしためった 中院入還在太民 越る 後息は行 前大僧立 意名 面的は師 大中代明朝 智大をまる文後成

かけていたりはろう えてわらうの名はべきていてものまりわちのかっま いるなるころのいうのいかをいるおとのなるちゃんで ちそうからのまつきれれれのしてきかってるから 月のまたうしけいれたてあるとりつからか てのはううくるりてきろうてるをはる 門おうなくくいりんりんのうたいりた 十百千合の中に神社とうろう おひきとくのはしたちゃん 好致了多 るをまってからしていない 村有しきからしいりてるのいるはろほって とわらていりてなしろかけるとのくかい そうでは一足的りの男太和天大是像成 文化六年女诗人的八七条八序仍是此时的二个 い場えの権をくろううろうとうとていれ おうわついろうち付きとけをしてるち とうとろうようかん うないかのころうからからまといると りせきとくかといれもほるか 硬致重俱 **お大僧山武系** 灰成章平 松室はる面 周防的侍 いうなん 鸭长的

わらけ る川ではしかけのはんけれるかんまつかくなど その節ハかりろのほろひんれもとうしれのる やいろうれていていかいりれたな事にとろしと あせていってかけをまるれとなっかれいかろ かられのラーとおのまいきしまいろうそのうは 文は六年女事の屏風、春日気とわてろうべんにさまるべいのみはりの つれかいかいくうといゆろうかけの多 あつくせいへかってれいるおらるとことも はゆくいってから 多一百看多一点的方面神被力以 行るはろとなる自のとうかくろうて同時 しかけねーろのダうといっとても六のほうとか 生像のうろと 高勝でそうに降るすいはこうままろあ 大多なの多くまては防内からいり 日石おうそくうろううをかかこえと くりられれないとうなるあるときはいろうか ねるいとろうほせててとるさるくのるが してそてようきろ 中的多演件 自大在天女人成成 金的風白太政を **お大僧山気を** 藤原丹夏

えるとなっとからえくけられていつかりまい らかとうないわっててはぞとかんけてのいす」のであ そうのかり場合のはいかいいかいくとれのそうから 奏わきいうりまったわらわいかりするかれいあき 他がけてなるめのといといかできるからはのはい 年ゆしていることではいろうとのもはるとうよ かれからとうろいれのでももくるしる の人でとかるのでるかくろうりんはもろか きかくすって给いろばつちょれのけるか れななるとゆうはそろれるゆうてろうろんと 白月花館村日南了て子了了多名時代 終かくりいりてきてきてり もうとあられて 白川花沙子 おいかて日るのまくのまっていたはき つけずるだきてとからの題まける うきはするゆきられていれるべかとう 終かくすうてゆーいるれかりるころのた りますゆうとくうとのりん の神いかってきててるのじますれるのりと 大京文教师 太上天皇 城城太寺方在 大上天皇

いいきいけん数サーハそくわさんのそのようあ なんいなっちょうののきまれせつけいうしょうい 前古今和歌集卷第二十 程数子 ろうかいはとまってもないからいけ 射的のうすっくちょくのでくとですく 正天かと代展的と及神王のころとしたる 比数山中等途色八十分 とろできるとしてもうう ころうくういろときかるですとえいいける ずのの原見るの繪を月れようる変のと かんろうしろう 品触る内取しととうしいま いり知録上人伯書の大いるまでいてとい していいのほれいいっていうさま くらうまくべのかでと ではおしるのではりそいいけからき ゆうなくうらんろううりのろうり いれるのととちとそれ种の質 多之 藤原通行 納室的氏 行奏菩薩

南上門はんかいそののするくろまれかりり 門橋多節三夜三春花八佛子ら我之が真好的 教養のどうろうたろうといめのありつれいている は八本のでいるときぬり からるみつかとしていてかのたとしていけん ゆくてころえ 足ろけつぞのまるるがろ んとないういりねるのろりもゆくて古代 八座的方 勘持品へな 安ふのかん は後ふるかいすとかいてい 善挽手の講奏へなくひしのういろうろう の食いかからわるく は幸經二十八品八年くしょゆせんろんり花 天王寺ろうかれの水とやくりて うねまらしまれかいろうととうろくくかりくてん **みりりいきなたりと格様しゆうて** つかしいいめかりるるときこ ほくなべのかろ のれんなれるとうの 箱禮大师 本納言應信 は成年入五前行政大学 上東门尾 は国上人 傳放大师 配後 僧神原心 日蔵上ノ

ねってとうやあっても おいつかられるしまたのまべてから月のがらか 我ころうれいいられ大きるかはころうちのの月 ゆうすい我にわけらいけつかかしてい くいけっちくのもありかられてはとうくはくしてしる からずむらうきまち う行やころうさせのかってきりくれつきはれぬまだっ ゆきつきれなとときせいはまわつうつれるよう 生像千中小 をわたりかりとりととういめもというてくべ は軽なりたちりであるちろれて他のかとと 被心如月輪若在柱務中のこと もわかいというるもとおえるうう かりきぬくりというのなるないとない はつめるとれるひかっとこけばはなられ 村政大政之民家百百多二十里八八人人 ろり縁んのかろと あるるうとはないれずろうといる 了小聖歌来最大年道は行 蓮花初開樂 かけのつびょうい 快樂不及五 うかきてなるとるは何から いててきせてきていいかり 特信ふる於 **お大僧ふ意園** 小侍徒 杨兴政大臣

かんう いろうなはいろうてくろるくりくてカホ 考れしまてめたら わりらと事代けてはいくちたもくあゆうとろいきる そこまてくかのめとももちろうできったろうとう りろうというはいまるのとはとめくうときともんでか とたからいわ するおはからけっやうとをはってるとうち 化城喻品 看门品 よううと世中ともなって 好華經二十八品中,是好了少好方便品 分別切迹品 唯有一去活人以 刘栋结绿紫 は行品かりなえる 都特品 敬索看 まして 百百からしんはいろとんともからない 先照高山 水滴常不偏之公丁人 ひかかきとちのいあるいろれいさんくて しまからいろうそからずくろいろ後のうかに しないといくろうかであっ なというしてるいろ お大僧公気多 会佛故應息のなど **本行不退她** はろう食と思え 化作大城梯 人道亦闻白大政奏 累住院两个 心食不言出 子一個便家 年豆は門

そういくしかりきをませるかりきゅうとうろうい うけのきらいきろうていてりそほうスとのそ ゆるがをうまろあるそろいうきせとものとけなか まゆいいろいあときでなりとそろんだくろう やしつからわり そしっといけつきのせいっちつ いるれかとろしかとうとへきけたりをそろう せるたろといわりていてはなるをつべてる (のあいか)かりなかりろうかりいろ うくちいろいさのおうしめい 今でもとりては女百看子」見るかな三去 弄起金卷 栴檀香层 養養情海月 監打畢竟宣 但宣者必言力 冬万半る品 **悲鸣咖**烟 当で題命即 衰減 作是数飞 **倒的欲往付** 合會有別報 はろうとうちゃろうかられるのう 夫をそれる最近人 りあいくないろかった 不連はが 内松養養行のな **お大僧ごゑ園** 福惡本群 後心地園 麻佐はゆ 必素廣 素見は師 极可象心 年後は印

うきをかはしたいとういうけんなうけっても たつき いいあされとっていれれいまそれろうのは するれてきいりとしてくれないかいかってもかららは 不倫当我 そういかとれているのうは他ろうろれるるの その面がつきしずる麦かしたとういれり 像玉墓 十成テーえんりに不致せ成 義福門信る松子六時横の繪ると人名と 待蜀門花中的言人ととうく大谷子る おんろうへつごれ会りはよからはいかられ 使引く成乃を全の声ような するてきつるとうにはりないとんと 不能面成 不北端故 百角一のけるあり展朝へ孫芝へなど す了大家は~~~不於飲我騰作びん 有量のない 如是被 人造的国的家了十四是一个一场七份了了 ゼット一戸品廣度福泉生其数会 あのからいれる 門作行作 二座院横的 雪大和文大人後成 有る内貌し というとうてきのも

とてらう境下にたしているいゆういと、あるるき ちまとうとうとうとうまるまからんって いついてはくれなりれめないへられなとかって きやきろうできとりられいからせいうらちとしてなん くりろとかいりれかきるかっとういろうれ りといの場のるりともあっとけったかいろう る一夜のうばでてそろうかろうろうな いてきつけるとりれないのまとうるか 發和我集八下品種 弦思題 维摩徳十七年五日の名とどうと 五百岁五品八次 僧都任任 即往安里世界のかばらん るととはっとうていれていろ ありは何とりいるちかりりますり きあり 二月十五日八書了小伊勢太府。 アからゆくてそれのあるではいいは 人的是了人的 後後接後任民一分 盛る内教を 汗鄉大衛 相模 あ的時间 赤连老门 焼め上人 待員門院好



